

宇和島市津島町岩松の町並み
重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム記録集

これからの、岩松の町並み。

令和6年12月1日(日)

於 岩松公民館 2階大集会室

宇和島市・宇和島市教育委員会



宇和島市津島町岩松の町並み

重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム 記録集

これからの、岩松の町並み。

【開催記録】

令和6年12月1日（日）

伝建地区
まち歩き

10:30～ 東京大学復興デザインスタジオ まち歩きツアー
前半：建築景観パート、後半：防災パート

シンポジウム
プログラム

13:00～ 開会あいさつ 宇和島市長 岡原 文彰

13:05～ 基調講演 『岩松のこれからと伝建制度』
工学院大学理事長 後藤 治

13:35～ 事例報告 『岩松の町並みのあらし』
宇和島市教育委員会 西澤 昌平

13:50～ 学習発表
宇和島市立岩松小学校
宇和島市立津島中学校
愛媛県立宇和島東高等学校津島分校

休憩

14:30～ パネルディスカッション
コーディネーター 愛媛大学名誉教授 曲田 清維
パネリスト 後藤 治
文化庁文化財第二課 村上 玲奈
高知工業高等専門学校准教授 北山 めぐみ
NPO harmoni ～ハルモニ～ 代表 松岡 あや
岡原 文彰
西澤 昌平

16:00 閉会

【目次】

2	開催記録	
3	目次・講師紹介	
4	開会あいさつ	宇和島市長 岡原 文彰
5	基調講演 『岩松のこれからと伝建制度』	工学院大学理事長 後藤 治
12	事例報告 『岩松の町並みのあらまし』	宇和島市教育委員会 西澤 昌平
14	学習発表	宇和島市立岩松小学校
14		宇和島市立津島中学校
16		愛媛県立宇和島東高等学校津島分校
18	パネルディスカッション	コーディネーター 愛媛大学名誉教授 曲田 清維
18	「伝建制度における岩松の未来」	文化庁文化財第二課 村上 玲奈
20	「岩松外観デザイン調査について」	高知工業高等専門学校准教授 北山 めぐみ
22	「岩松とハルモニと私」	NPO harmoni ～ハルモニ～ 代表 松岡 あや
27	「揺らぐ大地 揺るぎなき伝統」	東京大学復興デザインスタジオ
28	総括	
33	資料集	

【講師紹介】

後藤 治	工学院大学総合研究所教授 元文化庁建造物調査官 岩松地区町並み保存対策調査委員会副委員長 宇和島市伝統的建造物群保存審議委員会委員
曲田 清維	愛媛大学名誉教授 元愛媛大学副学長（教育学部教授） 岩松地区町並み保存対策調査委員会委員 宇和島市伝統的建造物群保存審議委員会委員
村上 玲奈	文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門文化財調査官 津島町岩松の重要伝統的建造物群保存地区選定の担当として尽力いただく
北山 めぐみ	高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科准教授 宇和島市伝統的建造物群保存審議会委員
松岡 あや	NPOharmony ～ハルモニ～代表 令和5年より旧阿部酒造をシェアスペース「ハルモニの家」として活用。地区内でのイベントも手がける。
岡原 文彰	宇和島市長 平成29年9月より現職
西澤 昌平	宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課文化係 主任 平成30年頃より岩松町並み保存業務に携わる

【主催者あいさつ】

宇和島市長 岡原 文彰

改めまして、みなさん、こんにちは。

本日は、天気の良い中を本シンポジウムにお越しくささいまして、本当にありがとうございます。

令和6年、あつという間に過ぎまして、あと残すところ1ヶ月となったところです。この1年を振り返りますと、能登半島地震で始まり、宇和島でも地震がありました。そして、夏にはオリンピック・パラリンピックでメダルラッシュ、大谷選手の話もあろうかと思ひます。いろいろな意味で印象深い1年だったと思ひますけれども、同じ約1年で申し上げますと、やはりこの重伝建、選定されてから1年が経過しようとしているところでございます。

旧津島町からスタートした主要な取り組みとして、やすらぎの里と岩松の町並み保存などがあつたとお聞きしているところでございます。長きにわたり、選定に向けた動きが、十分ではなかつたことはあつたのだと思ひます。私も市長を拝任してから1年目に、何とかこの地域の誇るべき文化を残していきたいということで、岩松守ろう会の皆様方とともにこれから活動しようとしていたときに、平成30年7月豪雨の災害で、また足踏みをするこゝになりました。

ただ、お集りいただいた津島町の皆様方の熱意のもと、また諸先生方、いろいろな導きもありながら、約1年前に選定を受けることができました。このこゝで生まれた機運を、単なる選定で終わるだけではなく、岩松、そして津島町の起爆剤としてこれからも大い

に、「ここに岩松ありき」という流れを作つていこうという中での開催でございます。

今日は諸先生方の様々なお話もそうですけれども、パネリストの皆様方のお話をお聞きして、次なる一歩を歩む、そのきっかけにしていきたいと思ひている次第でございますので、皆様方のさらなるご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

結びになりますけれども、このシンポジウムが、皆さまにとりまして、ともに歩んでいく一つのきっかけとなりますことを心から祈念申し上げます。私のごあいさつとさせていただきます。

それでは皆さん、よろしくお願ひします。ありがとうございます。



【基調講演】

岩松のこれからと伝建制度

工学院大学理事長 後藤 治

ただいま紹介いただきました工学院大学の後藤と申します。

今日は「岩松のこれからと伝建制度」というタイトルなんですけれども、制度の話は、この後のパネルディスカッションで、文化庁の村上調査官が話していただけるので、岩松のこれからを少し考え、話をしたいと思っています。

あまり堅くなく、岩松とか宇和島でも「とっぼ話」というそうですけれども、今日はそんなものだと思って聞いていただければと思います。

実は私は、ルーツは、母親が愛媛県越智郡朝倉村というところになりました。今、今治市に合併されてしまいましたが、母親の里では「とっぼ話」という言い方はしないんですね。そういう話が大好きなんですけれども、親からは「この子はしゃがばあ言いよ」というふうに言われておりましたけれども、そんな話だと思って聞いてください。

紹介にもありましたけども、全国の伝統的建造物群保存地区に色々関わっています。長野市戸隠と、岐阜県郡上市八幡は会長をしています。防災だけで関わったところ、計画策定に関わったところ、あと歴まちとか建築基準法除外条例、堅い話をしようとする、岩松もこれから、歴史まちづくり法に基づく歴まち制度を導入したり、建築基準法の適用除外条例を作って、いろんな面で国からの支援とか規制緩和とかをやっ

自己紹介

■伝建地区審議会委員等

弘前市仲町、横手市増田、南会津町前沢、
長野市戸隠、須坂市須坂、郡上市八幡、
宇和島市津島町岩松、南さつま市加世田

□防災

高岡市金屋町、金沢市卯辰山麓他、
東御市海野宿、福山市鞆町、廿日市市宮島町

□その他

甲州市下小田原上条、千曲市稲荷山（計画策定）
川越市、高山市（歴まち） 桐生市（施設整備）
津山市、内子町（建基法除外条例）



てった方がいいですよという話になりますけれども、今日はその話は終わりにして、とっぼ話に移りたいと思います。

実はかつて2017年12月5日に、「歴史と文化が地域を元気にする」というタイトルでお話をしました。今日も同じように、伝建制度を導入してまちづくりをやると地域が元気になるよ、という話です。

重要伝統的建造物群保存地区の選定ってというのは、まちづくりの第一歩に過ぎなくて、所詮制度は道具に過ぎません。文化財保存のために伝建地区をやるんじゃないんですね。地域にとって、この制度を使ってまちづくりをやると、地域が元気になるからやるんですよ。そうじゃ

2017年12月5日
愛媛県宇和島市津島町

歴史と文化が 地域を元気にする

工学院大学教授・理事長
後藤 治

歴史まちづくりとは？

1)重要伝統的建造物群保存地区
国の選定＝まちづくりの第1歩

2)目標＝地域が元気になる
来訪者増、産業(生業)? / 短期
中期:歴史的風致の維持・向上

豊かな暮らし・生活環境が良い
※ 長期:誇りが持てる地域

なかったらやる必要もないしやめた方がいいですね。

伝建制度があることによって、町に訪れてくれる人が増えて、そこで暮らし、^{なりわい}生業が成り立って、地域が元気になる、これが短期的な目標ですけれども、中期的には風景がどんどん良くなって、岩松で暮らしてるってということ—生活環境が良い町並みで豊かな暮らしができてるといことが、皆さんで実感できるようになって、誇りが持てる地域になるので、自然とIターンやUターンの人がしっかり集まってくる。そんなところが、中長期的な目標なんじゃないかなと思うわけです。このために、使いやすい、これを応援してくれる制度だから、伝建制度を導入してまちづくりをしようということなんですね。

一方で、良いことがあるかわりに、規制があるんですね。この規制を読んで説明するのも、頭が痛くなって嫌になるから、読まなくていいです。町並みで規制があってというんですけど、頭を切り替える。

規制っていうのは、規制って言うから何か嫌な感じになるんですね。地域の住環境を守るルール。それが、規制。保存は時間を止めることではなくて、地域の住環境を整えるやり方の一つ。良好な住環境が生まれると地域の価値は高まります。地域の価値が高まると、観光とか来訪者が訪れたり、人気の町になります。人気がある町、観光とか来訪者が多い町は、そこに訪れた人がこの町住んでみたい、暮らしてみたいと思うような町になるということですね。

ルールのある地区は、地価も高いと書いてあるんですけども、本当かなと思うでしょう。規制があると何となく価値が下がって地価が下がるんじゃないかって、よく言われるんです。

そんなことないですよ。

別荘地、考えてほしい。軽井沢の別荘地は、規制が厳しいけれど価値が下がってないんですよ。なぜならば、変な家が隣に建たないから。

皆さんのところだってそうでしょう。地域のルールを守って、地域に合った家で集落ができて、変な人が入ってこない。だからこそ、暮らしやすい、住みやすいってことになるわけで、そういうために住環境を良くしてこうっていうことです。

住環境を良くするためのツールとして、家の修繕なんかには補助があるってということなんですが、もうちょっと見方を広げると、空家や空店舗の改修に国から補助があるんですよ。空家や空店舗の改修に国から補助のある制度って、本当に少ないです。

伝建の制度っていうのは、空家だろうと住んでようと、ちゃんと補助がある。珍しくそういうものに補助が出る仕組み、でもあるんですね。

これからのまちづくりに向けて、規制をルールと読みかえるのと同じで、皆さんの常識を疑って、発想を転換してみましようということなんですね。

否定のまちづくりから肯定・評価のまちづくり、ですね。

大体、私なんかもそうですけど、日頃暮らしていると、文句ばかり言ってる。大体だめ出しと文句ばかり言って、否定のまちづくり、否定ばかりしてるわけですよ。これをちょっと切り換えて、言い方を変えて肯定的に評価をする。子供も叱ってばかりいると伸びないんですよ。褒めて良いところを伸ばさないと伸びない。町も一緒です。

まず、古くて汚い。これはどういう風に言い換えられるでしょう。これを言い換えてみたら、肯定のまちづくりになります。

古くて汚い家は、レトロで味のある家って言い換えられます。

耐震強度が不足した危ない建物。…補強して直せば使える建物。

全然違いますよね。

なんか耐震強度が不足して危ないって言ったら、すぐ壊さなきゃなんないみたいに思っちゃいますけど、補強して直せば使えるって言えば、使える建物になる。

さらには、人間も同じですね。長所と短所は紙一重ですよ。神経質で口うるさい人が、きめ細やかで几帳面な人ってなったら良い人になっちゃいますからね。それと同じ。常に駄目なことじゃなくて良いように言い換える。

狭くて車が通れない路地。これは何か。…老人・子供が安全に歩き遊べる道ですよ。

岩松のあたり、道が狭くて緊急自動車が家の前に来れないとかって言うてる人がいるかもしれない。そんな大したことないですよ。ストレッチャー持って走ればいいだけですから。数分も

違わないですよ。

家がなくなってしまった空地、これは何か。…防災用の火除け地、貴重な広場って考えるんです。

20年前には、岩松の人たちは出て行ってたんですよ。自分の家には、町屋が立ち並んで空地と広場が無いって言っていたんですよ。それが最近、家がなくなって、空地と駐車場が多くなってくると、空地になって寂しいって。人間勝手なもんですよね。そんなもんですよ。だから、切り換えて、使える場所だって思うだけで、全然まちづくりが変わってくるわけです。

だから今、岩松で、家がなくなってしまって空地になってるところも、何か貴重な使い方があるはずなんですよ。そう思って、まちづくりを考えることがとても大事です。

そういう点で、岩松を褒めて伸ばしていきたいところって何かあるかというと、まずは、重要伝統的建造物群保存地区になった理由にも掲げられているところですが、川と山に挟まれて、美しい町並みの風景が見えるということですね。

そういう意味では、道路の向こうから川を挟んで見える、ずらっと並んでる町並み、そこがいい感じだなと思えるように、今でもいい感じなんだけど、それをさらに伸ばしていくということが大事だと思います。

またその川では、今、川港の雰囲気若干薄れてますけども、川港が開かれて、物流の拠点でもあったということで、船の1艘2艘止まっていると、全然雰囲気が違います。そういうこともあったらいいんじゃないかなと思います。

それから、多様な建物で構成されている町並みで、その中でも、2階座敷に傾斜を持った、船底天井があるお座敷なんかも特徴的で、そう

いうところは大事にしていきたいですね。

それから、民間の手で発展・開拓されてきた町並み。

宇和島藩に属してたわけですけども、岩松の町場の開発だとか、川港の開発だとか、岩松川の付け替えとかは、みんな、町の資本でやった。ここはすごい。藩が主導してやったわけじゃない。

そういう意味では、これからの岩松のまちづくりも、行政主導じゃなくて、市民の力で地域を盛り上げていって欲しいなと思うわけです。

そういうものの面影を残すおうちなんかも、小西家の色ガラスはじめ、いろいろ残っているということがあります。

その他、これがいいですね。私の母の里の越智郡もそうなんですけど、愛媛県は本当、温暖で災害が少ないですね。今日、高知から北山先生が来てますけど、高知県はもうしょっちゅう台風が来るんですけど、愛媛は高知のような被害はないですよ。だからこういう温暖で災害が少なくて、豊かなせいで、はっきり言うと、お気楽でのんびりしてるっていうですね、うちの親なんかもそうでしたね。めっちゃめっちゃ気楽ですね。そういう人が集まると、「てんやわんや」の里になっちゃうんですかね。

これが岩松の特徴で、市の担当の人から、いろんな町に住んでる人はじめ、岩松でいろんな人に会いますけれども、てんやわんやの小説に出てくるキャラクターそのものですね、皆さん。ぜひ、あれを現代版でリメイクしてほしいなと思ってんですけども。

そういう、人に魅力があるっていうのも、岩松の特徴だと思います。

一方ですね、E県U市、どこだろうっていう感じですけども、ここには課題山積。少子高

岩松のよい点は？

◆伝統的建造物群保存地区の特徴

川と山に挟まれた美しい町並

川港がある岩松川

多様な建物で構成される町並

2階座敷の傾斜天井

民間の手で発展・開拓されてきた町並

面影を残す有力者の家（小西家色ガラス）

◇その他

温暖、災害が少ない

「てんやわんや」の里 + 人

E県U市の課題

少子高齢化、過疎化 / 人口の減少

+ 空き家・空き店舗の増加

/ 商店街＝シャッター通り他

⇒ 学校・病院・郵便局等がなくなる

※ 農山漁村では？ → 限界集落の発生

地方には仕事がない → ???

国・地方公共団体: 「交流人口の増加」に期待

⇒ 注目が集まる「観光」/ インバウンド

※ 街並・景観は高い人気

齢化で、過疎化が進んでいて、人口がどんどん減ってる。そうなると、空家や空店舗が増加して行って、商店街はシャッター通りになって、もしかすると、学校や病院や郵便局もなくなるかもしれない。

さらに周辺の農山漁村では、人口が減って、限界集落みたいな状況も生まれてきている。これが非常に課題。こういうときに、20世紀、10年前ぐらい前までは、これどうしようという、必ずこれの表裏の言葉で、地方に仕事がないって言うてたんですけども、最近そうでしょうか。

地方に、仕事はあるんです。

皆さんの周り見てください。空店舗って書いて店をやめたり、家業をやめたりしてる家があるんだけど、そこは商売が成り立たなくてやめてるんじゃないくて、後継ぎがいなくてやめてるところが結構あるんですよ。だから、事業を承継する誰かがいれば、その業は続いているだろうし、その事業を承継する事業の求人っていう仕事があるんです。

この元気のない、否定のまちづくりというか、悪いことが続いているせいで、続けられるものをやめてしまって、よそに全部需要を取られてる。これが今の、地方の現状なんですね。

こういう負のスパイラルに陥らないように、国や地方公共団体では、人口はすぐに増えないので、観光とかに注目をして、交流人口を増やしましょうということを言い出し始めています。これがこのマイナスのスパイラルをプラスに戻すきっかけになるんですね。

観光の中でも、近年は外国人、インバウンドで、人が来てるんですね。宇和島と岩松はどうでしょう。まだまだきてないと思うんですけども、やりようによっては、観光とかインバウンド、外国人が来るというのは目の前にあると思います。

特に、インバウンドの外国人に、町並みとか景観は非常に高い人気を誇っています。そういう意味では、岩松に限らずですね、遊子の段畑も含めて、宇和島市は、この町並み景観にすばらしい資源があるわけですから、ここを一つのきっかけにしない手はないんじゃないかということが言えるわけですね。

そういうことで、国選定は、まちづくりのスタートなんですけども、国に選定されると、認

知度知名度は圧倒的に向上します。なぜかという、地図とか道路標識に表示してくれるんですよ。例えば、高速道路とかで配布している道路地図に載ってたり。国選定の町並みになると、ちゃんと表示してくれます。その地図に必ず載せてもらえる。だから宣伝費ゼロで、時には国道の看板に「町並み」と、書いてくれたりするんです。この効果は絶大です。そういう効果があって、来街者は絶対増えます。

さらには、国から補助金が出て、市が補助をもらいながら、修理・修景っていうのが進んで、風景が良くなって行って、先ほど言ったみたいに、空家や空店舗の対策もできるようになってきます。

だからといって、これで成功するかって言えばそんな甘いもんじゃない。

国選定の町並み保存地区すべてがみんなそうやって賑わっているかっていうと、そんなことはない。成功してる町と、そうでもない町に別れる。

では何がその成功と、そうじゃないのを分けているのかっていうことですね。大事なことは、古い建物と町並みが良いだけじゃ、人は2回来てくれないってことなんです。風景がいいだけじゃ、1回来たら見て終わりになっちゃうんで。1回来た人が、この町にもう1回来たいなと思ってもらわなきゃ駄目ですね。もしくは自分が見に来たら、友達を連れてもう1回来ようと思ってもらわないと、駄目ですね。そういう再度訪れたい町になるためには、何が大事か。

まず一つは、見所を増やす。

見所を増やすって言うときに、たくさん見る場所があるっていうのが、普通に思い浮かぶでしょ、それだけじゃないんですよ。

「ちら見」

今日はここまでしか見れないけど、12月にはこっちが見れる、みたいなですね、ちら見が大事ですね。

町中^{まちなか}で公開家屋があるとしたら、365日開けてたら駄目なんです。冬しか開かない家とかですね。そういう、今日残念でしたね次来たときはこれ開いてるかもしれないっていう。こういうことも大事なんです。たくさん見所があればですね、そういうこともできる。

あと、特別公開。皆さんも、京都のお寺。ある時期に特別公開やると、ワーツとみんな押し

寄せる。あれをヒントにしないと駄目です。京都、いつでもお寺はあるんですよ。でも、特別公開の時にしか見れないところがあると、もう1回みんな行くわけです。これも大事ですね。あとそういうところの一つに、特別公開含めて、イベントですね。

岩松の人は、どぶろく祭りみたいにね、結構イベント大好きで、やっていますから、そういう意味では、結構、そういうチャンスが増えるかもしれない。

こういう見どころをふやしたり、イベントの参考になるのは、ディテールですね。建物でも細かいところ、人物や事件なんかへの注目ですね。獅子文六に注目したって良いし、「てんやわんや」の人物に注目したって良いですね。「てんやわんや」の主人公はそこに行ったら会える、みたいなことがあったらいいんじゃないかなと思うんですけども。

それからもう一つは、建物とか町並みはハードなので、ソフトの部分を充実するということ。よく言われるのは飲食の充実ですね。

美味しいものがあれば人は2回3回食いに来る。逆に、私が関わってる町並みなんかそうなんですけども、町並みを見に来る人と、食べ物食べに来る人が、両方の客層がいるんです。

これはね、結構、波長が一致してですね、美味しいもの食べに来た人は、古い町並みとか、そういう雰囲気の中で食べるとより美味しく感じる。食べ物を食べたついでに町並みが見れたっていうのが、非常に喜びになるので、その食堂とかレストランに、もう1回人を連れて来ようって、必ず思うんです。

それから古い建物が好きな人は、町に滞在時間が長いんで、その町で、何か食べる物ないかなって、その名物みたいなものを探しますが、

名物がない町はがっかりして、いまいちだったね、みたいな話になるんです。名物があると、必ず食べて行きますから、これは両方ともシナジー効果。お互いでプラスになり合う効果がある。

この関係はですね、岩松だけで考える必要ないですね。宇和島と岩松でもいいですし、岩松と周辺の、私は漁村や農村と繋がるべきだと思ってますけども、お互いでこういう関係を築いていくっていうことも大事だと思います。特に周辺の区域との連携ができると、滞在時間が長くなるので、飲食・宿泊はますます需要が高まる。

宿泊が分かりやすい。早朝か深夜に、行事があったら、絶対誰か泊まるんですよ。ホテルがなくなっても、キャンプして泊まるんですよ。

アメリカのワールドシリーズ、テキサスなんかの、何もなかったころの球場でやってても、そのときだけみんなテント張って泊まってる。朝晩に来たくなる理由があるっていうことが結構、大事ですね。

それを成功させてる農村集落の代表が、兵庫県の丹波篠山に、集落丸山っていうところがある。これは本当に有名な集落で、この風景の、8割がた空家になっちゃって、田んぼも8割がたが休耕田になってた。もう2、3軒だけが暮らすだけの集落になってた。そこに、若い人が入ってきて、シェフが入ってきて、イタリアンかなんかのレストランを1個作って、その近所の農家の娘さんがUターンで戻ってきて、空家利用の宿泊施設を作って、それが非常に当たって、次にそれが当たったことによって、そのシェフと宿泊施設に、ここで採れたての野菜を提供するための農耕をして、やりたいという若者が入ってきて、さらには、今では、休耕田を使っ



兵庫県丹波篠山市集落丸山



長野県長野市戸隠伝統的建造物群保存地区

て、都会の人が週末に、農業の体験に作るどころまでやっていて、今やこの集落の中に、空家は、たったの2軒になって、休耕田はゼロになった。そのぐらい、限界集落が非常に見事に復活した事例です。

何でそんなに成功したかっていうと、大都市から丹波篠山って、神戸とか大阪から、1時間から1時間半ぐらい、2時間かかんないぐらいで来れる。宇和島だと、松山から1時間半ぐらいで来るんですよ。似たような状況ですよ。そこでこういう成功が生まれているわけです。

同じようにですね、私に関わってる長野の戸隠というところの伝統的建造物群保存地区ですが、ここはね、戸隠神社の茅葺きの建物があつたり、これお寺の建物に見えますけども、これ宿坊で、元お寺なんですけども、戸隠神社は神仏習合の神様で、そこの関係していたお寺の院家が、みんな宿坊になったりしてるんです。茅葺きの結構大きな建物がたくさんあって、それが宿泊施設を営んでいるような町並みなんです。これを市が、町並み保存地区で何とかしようっていうことで今茅葺きの修復なんかがたくさん入っています。

この戸隠、なんで人気があるかっていうと、蕎麦。戸隠と言えば蕎麦。蕎麦だけじゃなくて、この盛り付けが美しいざるを、皆さん、竹細工で作っていて、竹細工も名物。雰囲気良くて、蕎麦食べに何度も訪れに来てくれるっていうのが、大事なところですよ。

そうやって茅葺の仕事が増えてくると、渡辺拓也さんっていう方が、それまで、別の場所で仕事をしてたんですけども、戸隠の中に奥さんと子供連れて移住してくれて、自分の家も茅で葺いて、今その自分の家で、宿泊施設を奥さんが営んでいるということで、人口も増えてですね、しっかりその町並み保存に補助金を市が出してる投資が、ちゃんと地域の生業を作るっていうことで、住民を増やすっていうことにしっかりと返ってきているんですね。そんな事例です。

ということで、飲食とか宿泊が充実するとですね、飲食店経営者と協業出来たり、宿泊業経営者と従業員という形で、こういう形で当然、雇用が生まれてくるんですが、大事なのは、昔ながらの言い方をすると、女将さんとか、飲食店だと食堂の親父さんとかってなっちゃうんで

すけど、これはシェフっていうと、カッコいいじゃないですか。パン屋さんをベーカリーっていうとカッコよくなる。

発想の転換でね、この篠山の集落を仕掛けた方とよく話してるのは、昔町にあった商店街であつたような商売は、すべてアーティストの経営だと。昔、働いていることを生業っていうのは、すべて、生きざまを、なりわい＝アーティストというふうに考えると、全然まちの誇りが変わってくるんです。

花屋さん、パン屋さん、食堂、床屋さん。

床屋さんかヘアメイクアーティストって言っちゃったらアーティストになっちゃうんですけどね。これ床屋って言った瞬間にただの親父になっちゃって、全然面白いですね。

皆さん町の生業をアーティストだと思った方がいいんじゃないかなと思うわけです。特に飲食や宿泊は、食材と結びついてるし、清掃とかそういうもので、パートの仕事なんかも生まれたりするということで、さらにこの古民家を改装する工務店職員さんたちの仕事も生まれるってことで、地域の生業と経済循環のエンジンになっているんです。

飲食とか宿泊とか、食材提供とかそういうものを、なるべく高付加価値型産業にするっていうのがこれからのキーワードで、そういうときに、古い建物や町並みっていうのが器だと、付加価値が増すわけです。

どうしても、古い建物とか民家もお金がかかるんだけど、逆に20世紀型の、大量生産の安いものをばらまくものには向かないわけです。高付加価値型の産業。アーティストが、普通のお店をやっているという感じにならないと駄目じゃないかなと思います。

ということで考えると、岩松は付加価値いっぱいありますね。シロウオ（しらうお）があつて、大ウナギがあつて、大ウナギ今なかなか捕れないかもしれないんですけども、天然のウナギが捕れる、これは相当レアですよ。天然のウナギ。滅多に捕れなくてもいいんですよ。今日は養殖しかありません、でも今度来たときは天然が捕れてるかもしれないと思うと3回くらいチャレンジするかもしれないですね。あと、海苔。海苔はね、醤油、味噌、酒と関係してますからね。

西崎さんがいるからお世辞で言ってるわけ

じゃなくて、醤油が残ってるってすごいことなんですよ、ほんとに。今醤油が一番危ない。味噌、酒、醤油の中で。醤油なくしちゃった町ってたくさんあるんですよ。そうすると、みんなキッコーマンになっちゃう。

いや、キッコーマンも醤油って呼んでるけどキッコーマンはキッコーマンですから。全国同じ一律の味になっちゃう。地元で作ってる醤油があるってことこそが、やっぱり地元の味の理由になるわけで、すごい価値なんです。

地元の料理は地元の醤油と、地元の水と地元のものを使って作る。そういうところにこだわって徹底していかないと、駄目。

この岩松の町の近くだけでもこれだけ魅力があるんだけど、旧津島町の中に広げると、海岸部には、養殖をやっている。それから、山間部に行くと、てんやわんやで桃源郷だと書かれたような農村が残っていて、そういうものを集めてきて、食材で提供するだけでも、すごい価値じゃないですか。

あとこないだ宇和島に来たときに、真珠が食べられるそうですね。私は食べてみたいなあと思いますよね。

そんなものは相当レアですよ。そういうのをね、輸出しちゃ駄目ですよ。ここにしかない、ここに来なきゃ食べない。そうやるとみんな来るんですから、簡単に輸出しちゃ駄目ですよ。

あと、プラスアルファで、南楽園とかやすらぎの里ですよ。こういうものもありますけど、道の駅なんかどこにでもありますから。道の駅で、何でも出しちゃ駄目ですよ。そうすると道の駅だけでみんな帰っちゃいますからね。

道の駅に行ったら、これの一番いいものは「ここでは売ってません」って言うてもらわなきゃ駄目なんですよ。その辺がもう、さっきの「ちら見せ」。チラッと見せてね、本物はやっぱりちゃんと町に行きなさいと、そういう戦略が大事ですね。

というところで、大体時間になってきたので、最後にですね、私のルーツ、先ほど言いました。番地を書かなくても郵便がみんな大字古谷で届いちゃってた。そんなところなんです。私の母親は亡くなっていますが、宇和島には来たことがなかった。

私の母親の中では宇和町が南限。宇和島は遠い国だったんですよ、ほんとに。だから愛媛の

北の方から、人を呼べる。南予と東予は別の国なんです。でね、その証拠が鯛めしが違うんです。

もう今や、松山の鯛めしが全部宇和島の鯛めしになっちゃう。これまずいよね本当に。まずいって美味くないっていうんじゃないよ。

宇和島、気楽に物を輸出しすぎです。宇和島に来ないと食べないっていう格好にしないと、今や宇和島の鯛めしが愛媛の全部の鯛めしだとみんな思ってますからね。逆に松山で昔食ってた、鯛の白身でほぐした鯛めしがなんか逆に懐かしいねって感じに今なっちゃってる。

南予にしかないものこそ貴重で、宇和島は松山からの日帰り観光圏で、愛媛県、もうちょっと宇和島に税金出してもいいと思うのにな。

なんでかっていうと、愛媛の名物と称してるものは、相当宇和島出自が多いんじゃないですか。

じゃこ天。今治じゃこ天は無いです。知ってます？じゃこ天は今治に無いですよ。今は売ってますけど、我々が子供のころじゃこ天なんて言い方してないんです。じゃこ天の名前はこっちですよ、絶対。

それからね、鯛めしもそうでしょう。愛媛みかんもそうですよ。温州みかん、今治でほとんど採れないですよ。松山だって今、温州みかんは採れないんですよ。ほとんど南予で採ってるんですよ。

みんなそれが、愛媛名物と称して、宇和島名物じゃない。損してると思いません。全部宇和島名物じゃないですか。

秋田県も似ています。きりたんぼとか稲庭うどんとか、秋田名物って言うてるけど、秋田市ではない。大館とか、稲庭なんか地名なんですよ。どこの地方も、意外にそうやって損してる。

そこをやっぱり、オリジナルに来ないと、味わえない、楽しめないっていうところを作っていくと、何度も何度も訪れたい町になるんじゃないかなというところで私の話は、終わりにさせていただきます。

ご清聴どうもありがとうございました。

【学習成果発表】

宇和島市立岩松小学校

[→資料集 P.34]



令和6年2月に開催された「第6回うわじま学校自慢CM大賞」に応募した映像作品を上映しました。

児童が岩松の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことをニュース仕立てで報告しました。

上映した動画は以下のアドレスから視聴できます。

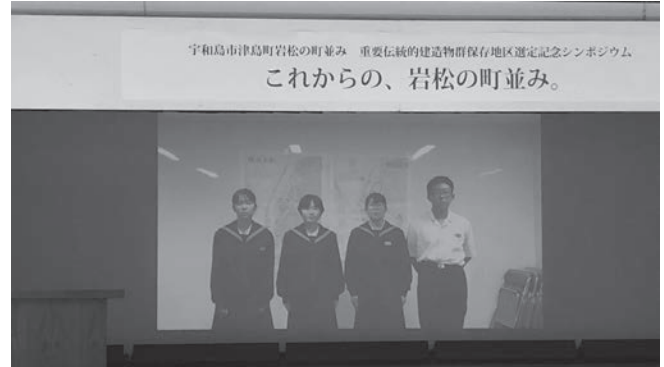
<https://www.youtube.com/watch?v=-6aE1ZRNLMo>



【学習成果発表】

宇和島市立津島中学校

[→資料集 P.34]



【津島中学校教頭】津島中学校では、以前より地域貢献というものを学校の教育活動の中で大切にとらえております。今までにも、地域のイベント、祭り等への参加、こども食堂の手伝いなど、生徒は盛んに参加をされていて、そのような活動に自信を持っています。

本年は、地域に住んでいるお年寄りと、生徒たちが話し合っ、昔の岩松の地図の再現に取り組みました。その成果を映像にまとめたものを上映します。

岩松地区の昔の地図づくり

- ・7月に、「よろず屋岩松」にお邪魔し、昔の岩松の様子について聞き取りを行った。
- ・昔あった店や川遊びなど、丁寧に話していただいた。
- ・聞き取ったことを、現在の住宅地図上にまとめた。
- ・戦前・戦後、2種類の地図を作ることにした。
- ・土地や川の流れは今と大体同じだが、今と違い店が随分多くあり、映画館、ダンスホールまであったと聞きびっくりした。
- ・学校で聞き取った内容を拡大地図に記入した。
- ・店名などは修正できるよう付箋に記して貼った。
- ・思い出など、聞いたことはなるべく記入した。
- ・作った地図を見ていただくため、11月に再度「よろず屋岩松」を訪ねた。
- ・作った地図を見て、思い出していただきながら追加の聞き取りを行い完成させた。
- ・お年寄りの方が、詳しく細部まで覚えている

ことがすごいと思った。

- 昔はこうだったねと皆で楽しそうにされているのが印象に残った。

地図の紹介

〈戦前〉

- 岩松川の西側はほとんど田んぼで建物はほとんどなく、岩松の町は岩松川の東に集中しており、そのため、カタヒラ町と言われていたそう。
- 町には今より多くの店、映画館、ダンスホールがあった。道には馬車が通ることもあったそう。
- 津島大橋はまだ架かっておらず、遠回りするしかなかった。ただし川幅は今よりも狭く、歩いて渡ることもできたらしい。
- 小西さんはたくさんの土地を持っており、その畑を通り、今の愛南町まで行くことができると言われていたそう。
- 風呂がある家は少なく、もらい湯や銭湯に行っていたとも聞いた。
- 新橋は木造で、台風のときは飛ばされていた。
- 川には大ウナギがおり、シジミ、青のりなどを採っていた。カワウソの存在を聞いたことがあるという方もいた。

〈戦後〉

- 岩松商店街には今より多くの店があり、バスも走っていた。場所が今とは違っている店も多いようだ。
- パチンコ店、郵便局などもあった、また、出産も病院ではなく「産婆」を呼び、家でしていたという話には驚いた。
- スマホなどはなく、子ども時代には、駄菓子屋など家の外で遊ぶことが多かった。多くの店があり、今の松山の商店街のようで賑やかだったのではないかと想像する。

地図づくりの感想

- 地域のお年寄りと話ができ楽しかった。特に昨年お世話になった方が自分を覚えていてくれたことがうれしかった。昔のことを楽しそうに話すお年寄りに、自分まで幸せな気持ちになった。
- 戦争時、岩松に疎開していたという話が印象的だった。また川で魚などを捕っていた話に、自然のある良い町だと改めて感じた。この豊かな自然をこの先も残して行ってほしい。
- 岩松に多くの店があり、栄えていたことに驚

いた。人が多かったのだろう。今は人も減り子どもも少ないが、この歴史ある町をもっと多くの人に知ってほしいと思う。

- 地域のお年寄りから、知らなかった多くのことを聞くことができ、大変ためになった。皆とても優しくてうれしかった。今回聞いたことを、次は自分たちが伝えていかなければと思う。

ご清聴ありがとうございました。

【津島中学校教頭】昔の岩松の、どこにどんなお店があったかというのは文献にも残されているそうなので、そういうものを調べたら、もっと正確なものができるかもしれませんが、私たちはこの活動を通して、お年寄りから直接生徒たちが話を聞くというところが、とてもよかったように思いました。

お年寄りの方は、昔のことを話し始めるとすぐ盛り上がり、もう止まらなくなって、生徒たちもどんどん書き取っていったのですが、岩松に昔、遊郭があったんだみたいな話になった時は、遊郭を生徒に説明するのが難しいなと思うこともありました。

ひょっとしたら、孫以上に年が離れているような感じのお年寄りと生徒の関係もありましたが、そういった関係性などが、今回の活動によってできたのがよかったなと思っています。

今後も津島中学校では、地域学習や地域貢献をテーマに、いろいろな活動に取り組んでいきたいと思っています。

【学習成果発表】

愛媛県立宇和島東高等学校津島分校

[→資料集 P.35]



「重伝建」と題して、津島分校の発表を始めます。

私たち津島分校は、前身である津島高校を含め、創立76年目を迎えました。津島町の皆さんに、いつも温かく見守っていただいています。しらうおまつりや津島夏祭りへの参加、岩松地区の清掃活動など、私たちの力が少しでも役に立っていると嬉しいです。宇和島東高校津島分校では、週に1度、総合的な探究の時間という授業の中で、地域課題について考え、調査や実践に取り組む授業があります。2年生からグループに分かれて、地域の方々と関わり、自分たちにできることを考えながら活動をしています。

今年は防災、ボランティア活動、岩松地区のジオラマ制作、アコヤ貝の真珠・貝殻の再利用などの取り組みをしています。その中で、私たちは、重伝建に指定された岩松を中心に活動をしている班です。

まず、岩松地区のジオラマ制作をしている班の紹介をします。2年間かけて生徒約12名が、青い橋から北側のジオラマを制作してきました。アコヤ貝の貝殻を砕いて砂地にしたり、空き箱を再利用しながら制作しています。制作途中ですが、展示していますので、ぜひご覧ください。12月14日に、岩松商店街で行われる津島中学生運営の「つしまるしえ」の津島分校ブースで、完成したものを展示したいと考えています。ぜひ見に来てください。私たちの班は、先

輩方が小西本家の離れについて学習始めたものを引き継ぎながら、今年で4年目の活動になりました。過去の活動については、展示をしていますので、ぜひご覧ください。

昨年度からの主な活動を紹介していきます。

昨年、蔵の工事が始まり、見学させてもらいながら、蔵の完成を楽しみにしていました。当時から残る大きな松の木の梁や、ベンガラが塗ってある柱がありました。100年以上前、たくさんの船が出入りし、人の行き来も多く、栄えていた岩松を想像すると、不思議な感覚になりました。離れの修復のときから変わらない思いである「当時のものを守りながら、活かしていく」という思いを強く感じることができました。完成した蔵は、当時のものと新しいものが融合していて、まさに当時と今をつないでいる建物です。今年1月、蔵のお披露目会で発表してもらい、愛媛で最初の重伝建になった内子町の保存に尽力された岡田さんのお話を聞くことができました。その中で、「岩松は重伝建の最初のスタートに立ったところ」と仰られており、これからの岩松を考えるきっかけとなりました。その後、西澤さんの案内で町を歩きました。岩松の建造物は、明治・大正時代の古い建物だけではなく、昭和などの新しい建物があり、時代のばらつきがあることが改めてよく分かりました。岩松の面白い特色や重伝建として選定された理由も、よく分かりました。

岩松以外の重伝建はどのようになっているのか、気になり始めました。そこで2009年に重伝建に選定された西予市宇和町卯之町の町並みを見に行きました。江戸時代後期の特徴がある建物が多く、統一感があり、伝統的な建物におしゃれなカフェなどの飲食店が入っていました。宿場町としても栄えたこの町は、昔の偉人が泊まった旅館があったり、歴史や当時の生活がわかる資料館などがありました。ベンガラを塗料として使っていた部分は、岩松と同じだと思いました。卯之町は山間部で、山を中心に栄えたという印象で、岩松とはまた違う景観や雰囲気を感じました。それに対して岩松は川沿いを中心に栄え、大きな岩松川の印象が強かったです。津島の10年後、20年後を考えるとわくわくしました。さらに、岩松特有の良さを感じることもできました。

今年度の4月からの主な取り組みの紹介です。

6月4日、岩松地区のジオラマを作成している班の皆さんに、岩松地区を案内しました。小西本家や旧西村酒造がある本通りを中心に散策しながら解説しました。昨年までは自分たちが案内される側でしたが、今回は伝える側になることで、これまで学んで感じてきた岩松の魅力や歴史を再確認することができました。また、臨江寺も行きました。この本堂の改築にも、小西家関わっています。

そして、ここで遭遇したのが、クロベンケイガニです。このクロベンケイガニは、愛媛県レッドデータブックに記載されており、準絶滅危惧種に指定されています。他にも、津島町にはベンケイガニやアカテガニ、ハマガニやアシハラガニなど、たくさんのカニがいることを知りました。8月にボランティア班の企画・開催した子ども夏祭りに私たちも参加し、カニつりと、小西本家の色ガラスのプラ板体験コーナーを設けました。夏祭りは小さな子どもたちが対象だったため、小西本家やカニについての詳しい説明はしていませんが、たくさんの子供たちに体験してもらうことができました。何より、自分たち自身が、岩松のカニに興味を持つことができました。

またこの夏祭りと同じ日に、人権委員が研修旅行で、重伝建である岡山県倉敷市にある美観地区を訪れ、伝建デジタルスタンプラリーが開催されている情報を得ました。これは全国の伝建地区を巡って、美しい町並み景観や日本の古き良き風景、暮らしを味わうことで、多くの人々に伝建の価値を伝えるために開催されています。そこで、私たちも岩松地区のデジタルスタンプラリーに出掛けました。重伝建の地区に入ると、スタンプを受け取ることができました。西村酒造がスタンプになっています。歩きながらじっくり建物を見るのは新鮮で、面白く感じました。伝統的建造物を地図を見て見つけながら歩くのがとても楽しくおすすめです。まだ知らないところがたくさんあるので、お店の中に入ったり、他の通りもじっくり歩いてみたいと思いました。スタンプラリーをしながら、あまり行っていなかった港町の方へ向かいました。この水色の洋風の建物は旧森医院です。その隣に兵頭邸があります。どちらも伝統的建造物です。突然の訪問にもかかわらず、ご厚意で見学させてもらえることになりました。現在、フラ

ダンスとフラ用品のお店をされています。2階は当時使用していた筆筒をそのまま活用したり、今ではあまり目にしない蓄音機や時計を飾り、味わいのある落ち着いた雰囲気になっていました。また、窓の外の格子も、当時のまま残されています。そして何より窓の外に広がる岩松川はとても美しく、思わずみんなで見とれてしまいました。11月、阿部邸、ハルモニの家に行きました。3年生6名、2年生6名の12名が分かれて、中庭のお手入れやベンガラ塗り、障子の張りかえや玄関掃除などを行いました。初めてベンガラを見て、こんなにも綺麗な朱色をしているんだと感動しました。はみ出ないように、丁寧に塗り上げていきます。塗り上がった後の、綺麗になった床や柵を見て、とても嬉しい気持ちになりました。昔からある伝統的な塗装を体験できて、昔と今の繋がりを感じることができました。障子の張り替えでは障子紙を切ったり糊を塗ったり、難しい作業もありましたが、教えていただいて、張り替えることができました。ハルモニの家の皆さん、ありがとうございました。

私たちは活動を通して、自分たちが今まで生きてきた中で、知り得なかった地域の歴史や文化に触れることができています。重伝建について学んでいく中で、少子高齢化が進む時代であっても、町を守っていくことができるのではないかなと感じました。岩松が重伝建に選定されるまで、たくさん調査や審議、説明会、離れや蔵の改修工事などが行われ、長い時間がかかっています。この先、いつまでもこの美しい町並みや地域を保存し、たくさんの方の思いとともに、次の世代へ引き継がれながら、岩松の魅力伝えていかなければならないと思っています。続けて活動を行っていきます。以上で終わります。ありがとうございました。



【パネルディスカッション】

【曲田】曲田でございます。よろしくお願いいたします。

司会進行役ということで、これから、約1時間半はないですけどね、1時間半弱、報告と、それから出来ましたら皆様からも、ご意見等いただきながら、進めていきたいと思えます。

私自身は先ほど紹介ありましたように、平成19年の報告書づくりに携わりました。それから色ガラスの家、蔵の修復にも関わりました。岩松についても色々勉強させていただきました。

それから、小西家にも小さな関わりがあります。大阪にいた時代、先代の小西勝一郎先生、大阪市立大学の教授でしたが、時々お話する機会があって、愛媛大学に赴任してから、小西本家当主と言うことを知り改めて驚いたものでした。

さて、今日の流れは、最初に村上文化庁調査官から、「伝建制度における岩松の未来」ということでお話いただき、次に北山めぐみ先生から、「岩松の外観デザイン調査」の報告、松岡あやさんからは、「岩松とハルモニと私」として町並みへの思いを紹介いただきます。そのあと、後藤先生、村上調査官、西澤さん、岡原市長さん含めて、ディスカッションに入りたいというところがございます。

それでは最初に村上文化庁調査官からお話いただきます。

伝建制度における岩松の未来

文化庁調査官 村上玲奈
[→資料集 P.36]

【村上】皆様こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました文化庁の村上と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

「伝建制度における岩松の未来」というテーマをいただきましたので、簡単に伝建制度のおさらいと、今後皆さんがどういったことに取り組んでいくことができるのか、よりよい未来と一緒に考える機会にできたらと思えます。

現在、全国に重要伝統的建造物群保存地区は129地区ございます。北海道から沖縄まで、43道府県に位置しています。愛媛県にも3地区、内子町八日市護国、西予市宇和町卯之町、そしてここ、宇和島市津島町岩松が選定されました。



もう岩松の魅力は皆さんが誰よりもご存知と思うんですが、西澤さんから発表いただいた通り、宇和島市津島町岩松は江戸後期から近代にかけて、商業を基軸に発展をした在郷町なんです。この山と川に挟まれた狭隘な敷地の中に、伝統的建造物が残っているというところが評価されています。

基準では、この中の(三)「伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの」というものが選ばれました。

全国の伝建地区は、それぞれが個性豊かな特色を持っていて、商家町、武家町、港町、山村集落など、種別に分かれているんですが、そういった様々な伝建地区の仲間入りをした、というふうに思っただけだと思います。

伝建地区は、伝統的建造物とその一帯の環境を保存するために、特に必要と思われる樹木や川や庭園なども含めて、そして文化財以外の新しい建造物も町並みの中に含まれています。

皆さんお住まいの伝統的建造物の1軒1軒が文化財で、それらを、周囲の環境と維持保存しながら守っていく。それ以外の新しい建物は、伝統的な文化財に調和させる形で、町並みを整えていくという制度です。

この中にもですね、伝統的な建造物に住んでいる所有者さんいらっしゃるとは思うんですが、その建造物1軒1軒が文化財で、この伝建制度は、それらの文化財集合体を面的に守りながら、現代的な暮らしを併存させるためのまちづくりです。

伝統的建造物群の位置、形態、意匠などの特性を、その周囲の環境と合わせて保存するため、現状変更の規制は、後藤先生におっしゃっていただいたルールですね、主に外観を対象としています。

これらの伝統的建造物群と一体をなす環境を保存していくために、宇和島市はマスタープランとなる保存活用計画を策定し、どのように伝建地区を守り、整備し、次の世代に繋いでいくかというのを定めています。

文化財を残していくということは、ただ箱としての建物を残していくだけではなくてですね、そこで営まれる家族の歴史息づく暮らしが継承されていく、ということはもちろんです。また、伝建地区の中で修理が頻繁に行われるようになると、土壁や瓦葺き、大工技術など、建築技術が継承されるような機会にもなります。また、他地区ではですね、地域の祭りや生業を受け継いでいくきっかけになってるような地区もごございます。

宇和島市の保存活用計画、皆さんお読みになったことがあるでしょうか。その保存活用計画の中には、「地区の住民及び宇和島市民共有の財産として、この伝建地区を保存し、交流や情報発信を通じて、まちづくりに活用することによって、生活環境の向上と地域文化の振興に資すること」を、この伝建のマスタープランの目的としています。

これまで皆さんが大事に守ってきた町並みを保存しながら、皆さんの生活向上と地域文化の振興がなされるように、伝建制度をこれからうまく使っていただきたいと思います。

伝建地区になった今何ができるかということを中心に説明させていただきたいんですが、文化財を保存し、安全性を向上して、活用も含めて検討していくために必要な事業について、補助金による経費の補助、そして専門的な知見から指導を受けられるようになるということのも大きなメリットの一つです。

例えば防災計画を地区の特性に合わせて、策定することができます。木造が密集する地区で、皆さんの安全を守る防災対策を、補助金を活用しながら、効果的に実施することができます。

修理修景事業では、伝統的建造物の修理、それ以外の建物の調和をしていくという事業があります。こちらの写真ちょっと見にくいかもしれませんが、兵庫県たつの市の事例を挙げています。家の前に四角い看板のようなものについて、パラペットというふうに私たち呼びますけれども、一見古く見えないものも、それらを外して、修理を行うと、当時の姿が町並みと

して回復していくという修理をすることができ、これらがなくなったことによって、光も入るようになって、居住空間の向上を目指すことができます。

修理修景を進めていくことがどういう意味を持つかという、これは福島県の大内宿という伝建地区の事例なんですけれども、ここは、山奥にあるにもかかわらず年間80万人が、訪れる観光地になっています。

左上の写真が選定前、右下の写真が選定後の写真になっていて、逆じゃないかなと思われる方もいらっしゃると思うんですけども、選定後に、茅葺きが復原されて、大きく姿が変わりました。

伝建地区としての歴史が長い、こういった有名な地区もですね、長い修理修景の歴史を経て、現在に至っています。

ここ宇和島市津島町岩松も、これからというところだと思うんですが、正直ですね、私が言うのもなんなんですが、伝建地区に選定されたからといって、魔法のように、何かすべてが良くなるってわけではなくてですね、ここから行政と住民の皆さんが自分たちの町並みを良い町並みにしたい、しっかり残していきたいという思いを持って、ともに手を携えて取り組んでいかないと、5年経っても10年経っても、なかなかいいサイクルというのは生まれてまいりません。

ただ、そういう思いを持っている方が、この津島町岩松には、大変多いというふうに私は安心して選定させていただいておりますので、そういう思いを持っている人が多ければ多いほど、選定後は町並みは良くなる一方だと信じております。皆さんもぜひ精力的に取り組んでいただきたいと思います。

そして伝建地区を守っていく上で、欠かせないのは防災です。木造建築物が密集して建っている地域が多いこと、またその中で皆さんの暮らしが営まれていることから、火災や地震などの災害から、皆さんの命、財産そして建物を守るため、地区全体に対する防火対策、耐震対策を考える必要があります。

市町村が防災計画の策定とあわせて、住民の皆さんと一緒に地区防災を検討する事例も多く、住民の皆さんの意見を防災計画の中に反映することもできます。

保存会の中に幾つかの部局を設けて、防災部局を組織しているような地区もありますので、ぜひご参考にしていただければと思います。

また、これから皆さんもお住まいの建造物を修理されることもあると思いますけれども、伝統的な家屋についても、少し筋交いを入れたり、構造用合板を入れるだけでも、皆さんの命を守る時間を稼ぐことができます。ぜひ、耐震補強も併せてこれから検討いただきたいと思います。

いっぱい話したいことはあるんですけどあまり時間がないので、他地区で活用をしている事例を時間があれば後で紹介しようかなと思います。

今後の岩松のあり方というのは住民の皆さんと宇和島市と一緒に考えていくものだと思います。

観光地にしなければいけないわけじゃなくてですね、岩松がこれから50年後100年後も元気で居続けるために、どうあるべきか、どういうふうに次世代に繋いでいくのか、そういったヒントが、他のすでに伝建地区として頑張っている地区にもあるんじゃないかなというふうに思っています。

最近宿泊施設なんかも増えておりますけれども、そういった宿泊施設だけではなく、若者のための、自習室のような使い方をしてるようなところもございますし、また後藤先生の話と被るんですが、いろんな文化の掛け合わせを頑張っている地区もあります。伝統工芸や伝統産業、またアニメ、漫画とコラボレーションしているところもございます。

岩松であれば、てんやわんやはもちろんのことですけれども、食文化、私、六宝を1回食べてすっかりファンになってしまったんですが、六宝もとても魅力的ですし、しらうお、どぶろくなどもございます。また宇和島市は真珠も有名ですので、そういった掛け合わせというところを頑張っていくというのも手のひとつかなと思います。

こちら辺はまた時間があればご紹介しようと思うんですが、こういった活用についてもですね、文化庁の補助事業だけではなく、観光庁や国交省の補助金などを利用しているような事例もございます。

重伝建に選定された今、皆さんの目の前にはですね、これまでなかった選択肢が広がって

て、それらをうまく使いこなしていただきたいと思っています。

住民の皆さんが安心して誇りを持って暮らせる地区に、そして、ここ宇和島市津島町岩松の魅力が、ますます輝いていく姿と一緒に見ていきたいと思っています。

私からは以上となります。

【曲田】どうもありがとうございます。

文化庁の伝統的建造物群部門の担当者は少数精鋭で、全国各地を回っておられまして、とても大変なお仕事と聞いております。ありがとうございました。

それでは次に高知工業専門高等学校の北山めぐみ先生には、岩松の町並みの特徴を調査されており、それに基づいて、ご報告いただきたいと思います。お願いします。

岩松外観デザイン調査について

高知工業専門高等学校 北山めぐみ
[→資料集 P.38]

【北山】高知高専の北山です。よろしく願いいたします。

ご紹介いただきましたように、私自身は曲田先生や後藤先生のように、当初の選定に向けた調査に参加をしていたわけではなく、岩松には平成の終わりに一度おじゃまさせていただいて、今回選定後の審議員というような形で入らせていただいてまして、その私が岩松の特徴について語るのは、僭越ではありますが、今回、9月に岩松の建物の外観デザインを再調査する機会があり、審議委員である香川大学の宮本先生と一緒に調査に入らせていただきましたので、その成果をもとにお話できればと思います。

この調査のきっかけですが、昨年12月に重伝建地区に選定をされて以降、岩松の中では、まち歩きマップも発行されまして、本日皆さんにもお配りしております。

また、地域の中から、伝建になったので町並みに合わせて格子をつけようかしらという声であったり、建造当初よりも後につけた看板を外して町並みに合わせたい、そういった声が上がっております。もう、それはもうてんやわんやの盛り上がりを見せているという状態で。審議会で町を回らせていただくと、その時にも、地域の方との話がすごく盛り上がってなかなか巡視が進まないというぐらい、楽しくさせてい

ただいております。

そういった声がある中で、岩松の町並みというのは先ほど津島分校の皆さんの発表にもありましたように、江戸の終わりごろから昭和40年代ごろまで様々な建物のデザインが残っております。

ちょっと見にくいかもしれませんが、私が来た当初に森田さんや宮本先生と一緒に歩いた時の映像になります。左に格子のある町屋が現れたり、洋風の建物が現れたり。特定物件になっている入母屋の屋根や、欄干が現れてきます。そして左手には非常に横に長い長屋建築が現れてまいります。ベンガラを塗った建物だったり、少し小規模な間口の狭い町屋であったり、また入母屋屋根の建物があったり、などしながらようやく臨江寺に到着する。このように少し歩くだけでも多様な建物、デザインを見ることが出来ます。じゃあこのような多様な町並みを、地域の方々ニーズにどんなふうに答えながら整えていけばいいだろうというところから調査に入らせていただきました。

今回は二泊三日という限られた時間でしたので、道から見える範囲の建物を調査をさせていただきました。また、対象としたのが、特定物件—というのは伝統的建造物として保存をしていきたいということで同意をいただいたお宅—を主に調査をさせていただきました。98棟ですね。調査した建物の分布を種類別に見るとこのようになってます。

主屋が大体70軒ほど、その他に土蔵や附属屋、離れ、旅館建築などを調査をさせていただきました。

まずは主屋について見てみたいと思います。調査報告書にも示されていますが、主屋だけでも様々な種類のものがあります。一番岩松らしいというか、皆さんの印象にあるのが、ハルモニさんが入っておられるような、1階2階に格子がついた、いわゆる町屋建築が代表的なものかと思います。それ以外にも、一つの建物の中に複数の世帯の方がお住まいになられて、ご商売をしたり、生活をしたりという、長屋等の連棟型のような建物。また、お店ではない、専用の住まいとして建てられたもの。旅館建築、その他にも大正の頃から昭和にかけて建てられた洋風のものなど。また、土居の奥に行きますと、農家住宅、広い庭を持ったような、農家風の建

物があります。地図を見ていただきますと、こういったものが、何となく通りの特徴として見られます。本通り沿いに町屋の建物が多く、先ほどのように土居の奥には農家住宅が少し見られる。そのような、エリアごとに違いを見せながら分布している様子がわかるかと思えます。

さらに町屋に着目して見てみますと、さらに様々な種類のものがございます。例えばこちらは高校生の発表にも出てきましたが、江戸の終わりごろかと言われる佐伯家ですが、1階に格子、2階には防火対策を施した塗籠造りになっています。1階に格子、2階に欄干があるもの、はたまた昭和のものになると間口が小さくて、岩松の場合は屋根の形が切妻で平入が多いのですが、三角の方が道に面して見える妻入も見られます。

このように岩松では、物流が変化しながら昭和40年ごろまで、賑わってきたという歴史的背景から、昭和40年前半頃までの建物を岩松らしいものとして大事にしようという方針としておりますので、こういった町屋ひとつ見るだけでも様々なタイプのものを見ることが出来ます。こういった建物がどういった経緯の中で作られて、また岩松らしさをどんなふうに説明するかについては、もう少し調査が必要かなと思っております。

さらに表構えのデザインを見てみたいと思います。町並みに合わせて格子をつけようかなというお話がありましたので、格子について見てみたいと思います。今回すべての建物を調査したわけではないので、地図に表れてるのが全体というわけではないのですが、1階部分に格子がついている建物は、実はそれほど数としては多くありません。代表的なものとしては、西崎さんのところですが、少しがっちりとした格子ですね、太い棧が特徴の格子があります。こちらは阿部さん、ハルモニさんのところもそうなんですけど、もともと醸造業を営んでおられて、お酒とかお醤油というのは、すごい重たいものなので、近代になっても、どこかにまとめて出荷するとか、あるいはお宅に配達するという販売の仕方をしますと、表構えが比較的しっかりと閉じた雰囲気になっているものになると思います。

昭和期のものになりますと、少しこう軽やか

で線の細いモダンな、数寄と言ったりしますが、線の細い格子のものが見られます。これの多くは住宅の表の窓などに付けられているものが多いように思います。外の視線を遮りながら風や光を通したい、そういったニーズに答えるものかと思います。

表構えとして一番多いのはガラス窓、ガラス戸ですね。大正や昭和期頃になりますと、多くの人が岩松の通りを歩いてお買い物する、そういった商店街的な性格を持っていきますので、より多くの人たちが店に入りやすい、そういった表構えにしていくところから、ガラス窓が採用されていたと思います。

このように考えていくと、1階の表構えひとつについても、それぞれの時代の選び方というのがある。その時代に合った整え方をしていくことが大事なのではないかと思っております。

このように岩松にはエリアごとの特性や、時代ごとの変化が豊かなところに特徴があると思っておりますので、今後、審議会を中心として、どんなデザインにするとよいかというガイドラインづくりや、修理や修景をしていこうするお宅の皆さんと一緒に、どんなデザインがよいかということと一緒に調べたり学びながら考えていく。それによって、岩松らしい風景がより豊かに語れるようになっていくのではないかなと思っております。

ひとまず、以上でお話を終わらせていただきます、ありがとうございました。

【曲田】ありがとうございました。

地元の方にはもう見慣れたものかもしれませんが、改めて、こういうふうには区別し、整理していくと、なかなか面白く、時代別、エリア別ということでも、いろいろ深掘りができることが分かります。

続きまして、NPO ハルモニの松岡 あやさん、お願いいたします。

岩松とハルモニと私

NPO ハルモニ 代表 松岡 あや
[→資料集 P.39]

【松岡】NPO ハルモニの松岡あやと申します。よろしく申し上げます。

「岩松とハルモニと私」というような歌のタイトルみたいな題をつけさせていただいたんですけれども、25年前の思いが繋がったという

ことをお話していきたいと思います。

自己紹介をさせていただきます。出身は松山市です。25年前に当時岩松に住んでいた姉を訪ねてきたのが初めてで、川沿いのこの景色に魅せられ、南予にふらっと移住することを決めました。それから、こちら津島町で結婚しまして、子供が3人おります。現在の職業は、看護師とフットケアサロンの経営をしております。2009年より「母と子のエンジョイコミュニティ hahatoco ~ハハトコ~」を立ち上げ、お母さんと子供が楽しめるイベントやワークショップ、講演会などの開催をしてきました。

今年、2024年4月からは、「NPOharmoni ~ハルモニ~」を立ち上げ、この岩松地区にて古民家活用プロジェクトをスタートいたしました。旧酒造場の阿部邸を「ハルモニの家」として、レンタルスペース、シェアカフェ、ゲストハウスの運営をしております。趣味はどこでもぶらぶら歩くことと、立ち読みと音楽を聴くこと、時々運動をすることです。

なぜ、この岩松のまちづくりに参加することになったかということ、25年前に一目惚れしたこの町のお店とかはどんどん閉じられてきていて、空家が目立つようになり寂しい町になりつつあるなあと、そんなもったいないことは絶対に嫌だなということ、この町の良さを守っていきたいという思いで参加することになりました。

最初に阿部邸ハルモニの家についてお話しします。

まずはハルモニの意味ですが、ハルモニとは、フランス語やスウェーデン語でハーモニーのことです。つまり調和です。新しいモノと古いモノ、若い人と年を取った人、よそ者と地元の者。歴史のある町並みで、それらが融合するという思いを込めて名付けました。

ハルモニの家では様々なイベントが開催されております。ハルモニ主催イベントとして、オープニングイベントで布袋さんに来ていただいたり、おひな祭りでは、阿部家の着物をお借りして、和洋折衷に着たりしました。ハルモニの夕べと題した夏祭り企画では、提灯行列ということで、町の、夜の町並みガイドをしていただきながら、提灯を持って歩きました。毎週木曜日にはですね、レンタルスペースとして、癒やしデーとして、マッサージやヘッドスパ、ヨモギ蒸しなど、セラピストさんが癒やしていただけます。また、週末カフェや映画上映会なども開催して

おります。他にハルモニフォトとして、成人式や結婚式の撮影も阿部邸や岩松の町並みで行っています。また、地元の作家さんの陶芸や、布草履、町並みを描いたポストカードの販売などもしております。

先ほどの高校生の発表でもありましたが、先週、津島分校の生徒さんに来ていただいて、ペンガラ塗りや障子塗り、障子の貼り、また中庭の掃除などをしてもらいました。このように子供たちに古きよきものを知ってもらって、次世代につなげていきたいという思いもあります。

「とにかく大人が楽しもう」とありますが、根本的にはこれかなと思っております。

先日秋のすてきな夜会として、ボジョレーヌーボーお料理を楽しむ会というのを開催しました。これも実はハルモニメンバーがここでボジョレーを飲みたいということから開催いたしました。お母さん、または大人が楽しんでいると、下に着物を着ている子供がいるんですけども、女の子ぽいですが実は私の息子で、親に楽しまれている感じですけども、子供たちも一緒になって楽しんでいます。子供たちが成長して外に出たとしても、この町で親たちが楽しくしてたな、私も帰ろうかなと思うかもしれません。また、岩松で何か楽しいことしよるらしいよ、私らも遊びに行ってみようかと、外からの人たちも遊びに来るのではないかと考えております。

先ほどですね、発表の中で、カニのことを触れてたと思うんですけども、うちのNPOのメンバーの中にはカニ博士がおりますので、ぜひ、カニのことを知りたい方はご一報いただけたらと思っております。

最後にですね、来年から新しいプロジェクトを企画しています。題して、岩松浪漫プロジェクトです。明治大正浪漫っていうの、よく聞かれると思うんですけども、その文化や芸術になぞらえて、岩松ならではのロマンを発見して、まちづくりに生かしていくことを企画中です。それにはまず、岩松の歴史を知らなくてはいけないということで、町内の住民の方から、昔の様子を聞いたり、各有識者の方の講演会などを企画していく予定をしております。またご興味のある方はぜひご一緒に、いかがでしょうか。

これからも、岩松、そして阿部邸ハルモニの家の動向を楽しみにしてください。

以上で私の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

【曲田】活動内容から始まって新しい企画もやります、という決意宣言もありましたね。よろしく取り組んでいただきますようお願いいたします。

ここでひと区切りしたいと思います。岡原市長さま、ここまでのご感想をお願いします。

【岡原】まず文化庁の村上さん、また北山さん、アカデミックな分析とかルールをご報告いただいた中で、では伝建地区をどのように活用していくのかということをお話いただきました。私もこの前ハルモニでのボジョレーの会にお招きいただいたのですが、志を同じくする方々が一堂に会して、またあそこを拠点として岩松で、活用の展開が見えるのではないかと感じました。やはりこういった熱意がある方が、まさに町をつくっていくんじゃないかなと感じました。

実は昨日、予土線のシンポジウムもありまして、その中でも、活用を進めていくキーマンがおられます。その方がいろんな方を巻き込みながらやっておられる。予土線の場合だと、それは高校生でした。僕たちが、僕たちの町をつくっていくっていうことで、大人たちを巻き込んで、高校生を中心にいろんなことが進んでいます。

先ほど松岡さんのお話に出てきたお子さんはまだ小学校3年生なので、まだまだ難しいかもしれませんが、こういった方がいろいろな方を巻き込みながらやっていくと思いますので、市はどういった立場でサポートできるかということに繋がっていくのかなという思いで、聞いていたところでございます。

【曲田】ありがとうございました。あとでもう一度お伺いしたいと思います。

では後半のパネルディスカッションに入ります。よろしくようお願いいたします。

ひととおりお話いただいて、まずは北山先生が、ついこの間いろいろ回って、分かりやすい分析をされていましたが、それも含めて、これから町並みを修景していく上で、こういう形でやれば良いのでは、あるいは好ましい取り組みなどありましたら、ご紹介ください。

【北山】岩松の建物が多様だというのは皆さん仰っておられることかなと思います。一方でガイドラインに定めることは簡単ではなく、ま

た、ガイドラインに示すことで個別の良さが見えなくなってしまう可能性もあると感じていて、どのようにまとめていけばよいかは難しいと思っています。ですが、今回調査をさせていただくことになった経緯が、地域の方々が直したいとか、町並みに合わせていきたいという思いやニーズがあること自体が本当に素晴らしいと思っていますし、とても心強いことだと思っています。修理や修景事業を進めていくことは、粛々と事業をしていくのではなくて、一つひとつの建物を直したり、調査をして設計し、工事と進んでいく中で、何かしら新しい発見があって。その建物が一体どんな歴史を持っていたのか、そういったことがひとつずつ明らかになっていくことが大事だと思っています。これからいろんな物件を直していこうというときにスタンスが大事になってくると思いますので、そのときに、その建物の個性って何だろうということを、ガイドラインを参考にしながらも、みんなで調べながら学んでいくことを大切にしたいと思っています。

調査は、やればやるほど新しいことが分かっていくところもありまして、先ほど後藤先生と立ち話で、これも面白いんだよね、最初の調査のときには気づかなかったんだっていう話があったので、ちょっとご紹介します。こちらの建物が小野さんのお家ですね。

写真では真っ暗なので見えないのですが、地元の方だったら分かると思うのですが、2階の窓のすぐ上に庇がついていて、でもその上にはもう1回、大きな屋根の庇が伸びて、2重の屋根が出ているような、庇が出ているようなものが岩松の町の中にはかなりあります。これは実は、高知でよく見かける風景でして、雨風が非常に強いので、お天気の多少悪い日でも窓を開けておきたいとか、そういったところから付庇をつけています。実はそれが岩松にもたくさんあるんだという話がありまして。高知の職人さんがやってきたからじゃないだろうとか、近隣地域との関係だったり、そういったこともこれからの事業の中で明らかになっていくとよいなと思っています。

【曲田】ありがとうございます。

そうか、庇がこう2重になっているわけで、結構多いということですね。

高知の事例から言うと、後藤先生、いろいろ

見ておられると思いますが、少しフォローするとどんなことになるのでしょうか。

【後藤】そうですね、だから高知風の建物は、高知だとそれが当たり前なんだけど、愛媛では東予にはほとんどないんですよ。(2重の庇は)基本的には高知様式なので、岩松は高知と交流があったんだろうなということが伺えて、その交流が出てきたのは、どちらかという、江戸時代とか明治時代ではなくて、もうちょっと岩松が商業的に発達してからの時代なのかなあというのが見えるっていう感じがしますね。

【曲田】そういう意味でいうと、近いのかなって。

【後藤】そうですね、観光の話でいうと、愛媛と高知の間って、今、日本の中で一番東京から行きにくいゾーンかもしれないけど、これほど宝の山があって行きにくいところはないんじゃないか、そこがまた魅力なんじゃないのっていう気がします。

【曲田】両者が手に取るにはどうしたらいいのでしょうか。

【後藤】高知の西側と仲良くするっていうのは、愛媛の南側で、これからのすごく売りになるんじゃないかなと思います。

【曲田】あとで行政サイドの話もいただきながら、この一番遠いところをどうするか、市長さんにも語っていただきたいと思います。

昨年12月に選定されてから、住民の方々の要望を集約していますが、西澤さん、どんな具合ですか。数から見ると、こんなに要求がいっぱい出てくるのかと驚いていますが。

【西澤】今年度始まって、ゴールデンウィーク明けくらいに、修理などのご希望ありませんかということで情報収集していたら、いろんなレベルはあるんですけど修理の希望で手を挙げた人だけで16件ありました。

【曲田】数の上で少なくはないですね。

【西澤】かなり多い。

【曲田】16件というのは細かく言うとどんなことがありますか？

【西澤】普通にお家を1軒直すということ言えば、よその伝建地区で言うと、年に2~3件、多くて3件とかだと思んですけども、16件のうちで、ちょっと雨漏りを修理したいとか、塀を直したいとか、そういったこともあるんですけども、お家を本当に修理したいというところだけで10件ぐらいありました。それを全部

話を聞いてると、業者さんも足りないし、建築士さんも足りないし、お金も足りるのかという問題も出てきます。どういう相談をして、工事発注まで持っていかっていうところで、時間差は出てくると思うんですけども、どれを優先という順番をつけるのも、悩ましい問題だなと思っています。

【曲田】たくさんの方が要求が出てきていますが、それに応えるために、次には物と人が要るわけですよ。

初期の段階からこういうふうには、具体的に一つひとつが重なっていくと、こんなふうにはできるのかと見えてくるわけですが、そういう要望に答えるのに、技術者集団のことについて触れてみたいと思います。村上さん、修理修景するのに、その担い手については、愛媛でも本当に大変なんですけれども、他でどういう工夫があるのか、ご紹介いただけませんか。

【村上】ありがとうございます。今全国129伝建地区があって、それぞれがやっぱり業者さんや建築士の方が足りないと思われてる地区も多くあります。かと思えば、すごく充実した体制で取り組まれているようなところもあって、その中の多くの地区が、都道府県のヘリテージマネージャーの研修を受けられた方が、設計監理建築士として入られて、事業を進められています。

とはいえですね、ヘリテージマネージャーの講座を受けたからといって、すぐに1人前になれるというわけでもなくて、そういった修理にたくさん関わりながら、これはこの岩松ならではの作り方だねとか、この痕跡は岩松でよく見られるものだねってのは、やっぱり実績を重ねていかないとわからないところでありますので、できるだけたくさんの方に修理に関わっていただく必要があるのかなと思います。

他の地区では、保存会とまた別にですね、設計士さんたちの勉強会を作って、普段から勉強会をしたり他の地区の施設に行ったりされているような事例もあります。建築士さんだけではなく、修理に関わる職人さん大工さんや、屋根屋さん、左官屋さんなど、そういった方達も含めながら勉強会を実施して、例えば重要文化財の修理現場の近くであれば、その方たちで見学に行ったり、国宝や重文修理に関わられる主任技術者に講義をお願いして4日間ぐらいの演習

を市町村で開いているような事例もご紹介します。今後も、宇和島市の課題としてはそういった職人さんや建築士の人をどういうふうに一緒に育てていくか、どういうふうを増やしていくかということかなというふうに思います。

【曲田】ありがとうございます。

岩松だけの課題ではなくて、愛媛県、もう少し広く言うと四国のそれぞれの地域で、伝統技術をどういうふうにするか、あるいは復活させるかという課題もありますね、なかなか大変ですけど。建築士会や、地元の大工さんを交えての勉強会も必要になるかもしれません。

西澤さん、周辺の技術者とか大工さんの何か引き継ぎというか、交流みたいなことはどんなふうにやっていますか。

【西澤】私の発表で少しお話をしたんですけども、重伝建選定前に建物の調査っていうのを愛媛県建築士会さんをお願いをして、建築士会宇和島支部を中心とした、ヘリテージマネージャーの資格を持った建築士の皆さんに、岩松地区の悉皆調査をやっていただきました。その調査をしていただいたメンバーの方は、ある程度岩松のことも分かるし、ヘリテージマネージャーとして建築の勉強されているということで、修理がいっぱい相談があったときに、皆さんちょっと助けてくださいっていうことで協力をお願いしています。あと小西本家の修理のときに、建築家協会さんのメンバーの方もご協力いただいて、建築家協会さんのほうでも古い建物を修理するための資格制度みたいなものがあったりするので、そちらで資格を持たれてる方とか、二本立てで相談できるような形にはして進めていこうかと思っているところです。

実際に卯之町とか内子町で、修理とかに携わった経験があるっていう方はなかなかそんなに多くはないんですけども、そういった関わりがある皆さんに協力していただいて経験を積んでいただこうかなという思いがあります。

【曲田】ありがとうございます。

岩松の報告書が出てからの10数年の間、町並みをどうにかしようという動きもあったわけで、そのひとつに色ガラスの家の修復がありました。

ひよっとしますと修復される中で、それに関わった建築士・ヘリテージマネージャーが繋がって、技術交流なども芽生えているかもしれ

ません。

行ったり来たりして申し訳ありませんが、ここで岡原市長さんに少しお伺いします。平成19年に報告書が出て、それから15年ほど経つわけですけど、その間市町村合併など色々あったのかもしれませんが、その間の岩松なり、重伝建に対する考え方みたいなことについては、市の行政の中でどう位置付けられてきたのかお話いただけませんか。

【岡原】平成の大合併が平成17年8月1日でするので、新宇和島市になってから、報告書が完成しています。私の任期が平成29年からですので、この間の詳しい流れというのは、十分に承知はしていませんが、宇和島市にはこの津島の伝建地区だけではなく、多様な歴史文化がございます。

三間には毛利家という、かつての庄屋屋敷を守ろうという会がありまして、三間地区という海のない農村文化の価値というものを残していきたいと思っていましたし、吉田におけるお練りの文化の継承については、現在文化庁にしっかりと評価をしていただくという段階です。宇和島では伊達博物館とかいろいろあります。

三間の毛利家については、先日、ご当主がお亡くなりになられた中で、その毛利家の建物自体を市に対してご寄附をいただいたので、市のものとなりました。これらをどのように活用していくのかということに力を入れていきたいと思えます。ここ岩松の伝建地区と一緒に、汗をかいていかないといけない。そういった意味では、毛利家を守る会にも先ほど話をしたキーマンがいらっしゃる。世代は先輩にあたりますが、非常に熱意のある方々です。

行政が何かやるということよりは、誰がキーマンとしてやるかという方が、活動の質もいいと思えますし、行政だけでやることでは、現代の価値感の中ではもう対応できない部分がたくさんあります。そういった活動の輪をどんどん広げる中で、行政の役割というのがまた見えてくるんだろうと私は思ってます。例えば何かしらの補助かもしれませんが、そういった背中を押すためにどのような形でできるか、しっかり考えていかなきゃいけない課題と認識しています。

【曲田】ありがとうございます。

市の方もいろいろキャッチして、後押しされておられるということがよくわかりました。

ここまで制度に関連する話をしてきたわけですけども、人の話が出ましたので、松岡さんに、岩松のいいところと、それから人育てという意味で、どんなことを考えていらっしゃるのか、お話しいただきたい。それからこっち直したい、あっち直したいっていうだけではなくて、そういうことを応援する、あるいは、空家を使って何かをするということも含めて、人の輪を作らないといけない。そういうことを先頭立ってなさってるわけですけども、さらに広げていくとしたならば、何かご自身で考えていらっしゃることはありますか。

【松岡】私の妄想が非常に大きくてですね、岩松の町並みが、古いものを活かしながら、面白い場所というか、もう本当に、先ほど言われてましたけど東京から一番来にくい場所ではありますが、それでも来たいと思っていただけるような町にしたいなと思ってんですけども、私も実は松山出身なので余所者です。

余所者なので、普段住民の方が当たり前だと思って景色が当たり前じゃなくて、カニが家のシンクにいるとか、本当に当たり前で通るとこも信じられないことだと思うので、その先生方もそうじゃないかなと思うんですけども、そういったそのカニの生態も何か聞くとところによると、かなりロマンを感じるというか、それももちろんその自然に関してもそうなんですけれども、提案は私も拝見させていただきました。

もちろんその人の人柄とか、町並みの面白さ、風俗ですよ。歴史も、硬い歴史じゃなくて、人が生活してきたっていう暮らしの中の風俗っていうのを、掘り出してみたいっていうか、そこにきっと面白さがあるんじゃないかっていうことを、ハルモニのメンバーとも話しています。

そのためには諸先輩方、住民の方もそうですし、関係してきた方もそうなんですけれども、余所者がやっていく上には、やっぱりその諸先輩方のお話ですとか経験ですとかを、アドバイスを聞きながら、新しいというか、これからの町づくりっていうのに挑んでいきたいと思ってます。

あとは子供のことなんですけれども、ハルモニのメンバーみんなお母さんで、ちっちゃい子供がいるお母さんもいますし、もう成人している子供たちのお母さんもいるんですけども、そのいろんな世代の子供たちに、良さを引き継

いでもいいってというのは、一番にあって、内子町が今の形になるのに50年ほどかかっただけで聞いたんですけれども、私が50年経つと、ちょっとこの世に居ないかも分からないので、今一生懸命その子供たちに、良さとか先ほどのベンガラ塗りもそうなんですけれども、経験してもらって、歴史的な、重要な建物があって、そこに人がいて、その全部ひっくるめた良さを子供たちに伝承していきたいなっていう思いがすごく強くありますので、またそのあたりも取り入れながら、人と人の繋がりを大事に、岩松での町づくりに挑んでいきたいなと思ってます。

【曲田】ありがとうございます。

少子高齢化を払拭するのは厳しいですが、でも、そうやって小さな繋がりでも、一つひとつ繋げていけば、大きくなるということですよ。

さて、ここでフロアに、内子町の方が来ておられます。町並み保存の大先輩の芳我さんに、感想でも結構ですし、あるいは何かエールでもいいし、一言お願いしましょうか。

紹介しますと、芳我さんは、内子町の町並み保存会の会長さんでございます。

【内子町 芳我明彦】

急なご依頼でちょっと戸惑っておりますけど、内子町は先ほどご紹介いただいたように、昭和57年町並み保存地区に選定されてから42年目になります。保存会の前身は少し前に出来ておりました。

保存地区選定の時点で既にもう新築になっていた建物も何軒かございましたので、その家につきましては文化庁の村上さんがおっしゃいましたように、「修景」すなわち町並みの雰囲気合うような工事を施して、景観を保っているという状況でございます。

町並みの中で、昭和の新しい建物が建っていたところが現在工事中です。元は1軒の建物だったのですが、その半分が昭和の建物になっておりました。持ち主の方にご理解がありまして、このほど昭和の建物を壊して雰囲気に合う建物を新築することになっていきます。完成したら昔の町並みの雰囲気がまた蘇るということになります。このように、内子町では長い経験の中で「町並みを保存していこう」という意識が皆さんの中に定着してきたのかなと考えています。

岩松の方もこれからだと思います。今朝町並

みを見せていただきましたが、最初の仕事は伝建物の修理でしょうか。早くしないともう危ないんじゃないかなという伝建物もございました。修理がある程度進みましたら、次の仕事は比較的新しい建物の修景ですね。

自分なりに感じていることですが、新しい建物もいずれ建て替えるの時期が来るだろうと思います。その時には、町並み保存の担当者を持ち主の方が十分に協議されまして、町並みに合う建物にしていくことをお勧めします。「新築するんだったら、将来重要文化財になるような建物を建てましょう」という話をどこかで聞いたことがございます。重文になるかどうかは別として、町並み保存の意識を次世代まで引き継ぎ、建て替える時には「町並みを作り直す」という気概を持って雰囲気に合う建物を建てていければ、さらに素晴らしい伝建地区になるんじゃないかと思いました。ありがとうございます。

【曲田】勝手にお願ひしましてどうもすみませんでした。

時間が押してきましたが、大切なことが残ってました。東大グループが事前復興計画について、調査研究しまして報告したいということです。

重伝建地区では、いろんな災害が今起こりつつありますよね。輪島の伝建でも大きな地震災害です。そういうことも含めて重伝建では防災計画を作成するようになっております。それに類するかもしれませんので、ご報告いただきましょうか。

揺らぐ大地 揺るぎなき伝統

東京大学復興デザインスタジオ
[→資料集 P.40]

【松谷】改めまして、私たちは東京大学大学院で研究をしており、復興デザインスタジオというもので、4月から西澤さん含む行政の方であつたり、現地の住民の方からお話を伺いながら、岩松で今後地震など大きな災害が来る前に、町ベースでどういった防災について取り組みを行っていきけるかということ、建築系のチーム5人で考えてきました。

そこで考えてきたことを、発表させていただければと思います。初めに、建築の専攻である松谷から話させていただきます。



岩松はこれまでお話しいただいたように、重伝建に選定されて、川港として栄えたり歴史があって自然豊かな町であるということで、その中で、南海トラフ地震という今後予想されている高い災害リスクのものに対して、津波であったり、建物の倒壊や火災など、土砂災害まで想定されている中で、どういったことができるかということを考えてきました。

スライドにあるように、こういった災害リスクが高い中で、重伝建として復興していく、災害発生後に復興していくハードルがなかなか高く、地域として取り残されて孤立してしまう可能性もあるのではないかといたりリスクが想定できます。工法の復元であったり、木造の住宅が密集した地域の危険性とか、復興に関して難しいことが起こるのではないかと、そういった部分と、建物の修理の時間であったり、人や材や工法などの手配が難しくなっていくことなどを含めて、どういったことができるかということで、今後考えていく一助になればなというふうに考えております。

その中で、岩松らしい空間構造とコミュニティ保存・再生を念頭に置いて、事前に復興と復興復旧期に焦点を当てた提案を行います。

私たちは建物の強化と、コミュニティの強化、それに加えて関係人口の創出という3点を、方針として置かせていただきました。

その中で、二つ提案としたいものがあります。

拠点の新設や広場の整備に加えて、重伝建の復興に対する新たな制度の策定といった部分の提案になります。

空間の提案といたしましては、観光の拠点と防災の拠点として、様々な歴史的な建物や場所、商店など、そういったものを活かすのに加えて、

防災拠点として、町の最大の津波が流れる場所で、拠点との連続性を持った中で火災などが発生した際に、そういった延焼を防ぐような広場を加えて作っていくと良いのかなというふうに考えております。

敷地としては、この現在、中心部の空地と駐車場となっている場所を活用するのがいいのではないかとということで、私たちが考えたものとしては伝統的な意匠などを利用しつつ、住民の集会所であったり、観光の案内所であったり、災害発生後の復興の中心となるような、情報発信場所、センターといった機能を持たせたものを作っていくといいのかなというふうに考えました。

その中で、住民の集会所であったり、町のいろんな商店などを紹介していくような場づくりだったり、広報や、災害発生後にどういった修繕を行うか、現在どのように補強を行うかを相談できるスペースを、作る事ができれば良いのかなというふうに考えております。

こちらは詳細な図面になります。平時は会議や、大工さん・専門家との相談場所であったり、集会所や情報発信の場として利用しつつ、あとは、広域に町の移動であったり、川向かいの地区だったりへの、移動ができるようなモビリティの利用などもできればいいと考えております。

復旧時、復旧復興時に、仮設住宅から岩松まで通う足になったり、住民同士の交流や情報交換の場所であったりボランティアの拠点など、そういった復興に関わるような場所になればと考えております。

広場としましては、ちょっと時間の都合もありますので、簡単にご説明になりますが、町の中庭としての公園で休憩であったり、町の祭りであったり、先ほどもお話があったような伝統工法の製作体験などのイベントができるようなスペースが良いのではないかなと考えております。

もし災害が発生した場合は、現在、狭い道となっているような地域を利用することによって、建物の倒壊によって、道が閉塞してしまうのを防いだ中で、高台に避難ができる動線を作れたらというふうに考えております。

【東城】続きまして制度提案について東城が発表させていただきます。

文化庁の方や市長さんがいらっしゃる中で大変恐縮なんですけど、6つ挙げさせていただ

て、時間がありませんので3つ代表的なものを紹介させていただきます。

一つ目が共通空家バンクの運営です。全国的に重伝建で空家が増えていると思うんですけど、やはり伝建地区の古い建物に住みたいとか、あとお店にしたいって方は結構いると思うので。ただ、どこの重伝建がどんな人にマッチしているか、これが分からない方が多いと思うので、そういった方々と空家を貸したい方のマッチングを行うような空家バンク、こういったものをつくればいいのかと思います。

二つ目が重伝建基金の設立なんですけど、基金といいますとやはり資金源が必要だと思うんですけど、伝統的建造物に宿泊する方って、建築の価値を認めてそうだと思うんです。なので宿泊税で多分500円ぐらいすると普通の宿泊施設ですと高いと思うんですけど、重伝建の伝統的建造物に泊まる方で500円出せる方って結構いると思うので、そういったものを活用して基金にして、災害救助事業ですとか事前復興事業に充てられたらなと思います。

もう一つは、現地再建をする際に複数件がまとめて復旧したいというときに補助金の増額を行うと、連続的な町並みの維持に繋がるのかなというふうに考えております。

復興へのロードマップはいろいろあるんですけど、あまり時間がないので少し省略させていただきます。

ツアーを本日午前中に実施しまして、景観建築面と防災面の気づきについてあげさせていただきます。アンケートを回答いただきまして、建築や景観面ではやはり和風建築といった建築がいい雰囲気という意見ですとか、防災面だとやはり使える道路が限られるとか、様々なリスクがあるというような意見があげられました。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

あとは後方の方に、小中学生と同じようにのパネルであったり模型の展示もしておりますので、詳しくお話ししたい方がいらっしゃれば、後程聞いていただければと思います。ありがとうございました。

【曲田】ありがとうございました。時間がない中で、申し訳ございませんでした。

これについては、防災計画を作るときの参考資

料になると思いますので、またご協力ください。

時間が少なくなりました。そろそろ最終コーナーなんですけど、後藤先生、何か補うことができましたら一言お願いします。そのあと、岡原市長さんに全体まとめていただいて、最後、村上調査官に総括をお願いいたします。

【後藤】そうですね、今後、岩松がやらなきゃならないこともたくさんあるし、問題山積みなんだけど、逆の言い方をすると、やりがいがあることがいっぱい転がってるという、今日の私の言い方で言うとそういうことだなと思ってます。

例えば今回、高校生の諸君がベンガラ塗り体験をやってくれてるんですけども、ああいう、高校生の力を借りてできることって他にもあって、例えば辞めた店舗とかってどうしても片づいてなくて、物がいっぱい置いてあるんだけど、それ片付けてさらの状態にすると、すごくいい空間に生まれ変わって、お掃除は保存の始まりっていうことで、掃除のプロジェクトをやるだけで結構使える資産に見えてくるっていうのがあると思います。あと、建築士さんに指導してもらいながら、高校生で絵の書けるような子がいれば、簡単なビフォーアフターの、ちょっと手を加えると良くなるというような絵を描いてもらう。オーナーさんの了解が要るんだけど。実際にそういうのをやると、高校生が参加してもらわなかったんですけど、長野の戸隠では、建築士さんにそういうビフォーアフターを描い



てもらったら、本当にすぐ次の年、自費でやってくれる人が出たりしたっていう例もある。

ビフォーアフターはこんな感じですね。花を活けてパネル設置して照明採ってるだけ。これ高校生でもすぐ出来て、すごく良くなる。こちらは並べ方変えて緋毛氈みたいな敷いて。

これ見てください。おおって感じがするでしょ。

いや、これ実はね、そんなにお金かからないんですよ。実はこれ外壁を全部木製にしてるだけ、トタンを木目にしてるだけなので、実際だとこんな感じです。金属版を木板に変えて、シャッターの色を少し合わせて、花壇を作るっていうぐらいなんで、そんなにお金かからなくて、伝建の初歩的な補助金でできちゃう話なので、こんなふうにしてできるところが町の中にたくさんあるよねって探して絵書いていだけでも夢も広がるし、みんなの共通の方向性みたいなのも見えるので。大変なのを探しちゃうと大変なだけど。

そういう意味では、さっきの阿部邸の裏側なんか、こういうものに向いていて、あそこが裏から使えるようになると、ものすごい夢は広がるんじゃないかなと思います。

【曲田】良い実例を見せていただきました。

無理にお金かけなくても、いろんなことができそうだといいことですね。

いろんなお話が出ましたけれども、市として



こういうことについて考えているあるいは支援したい、何でも結構ですので、最後に市長さん、まとめてお願いいたします。

【岡原】今日のお話で一番印象的だったのは、後藤先生の「発想の転換」、まずそこが出发点なんだろうということでした。難題だから足踏みするんじゃないかと、それをどうクリアするかっていうきっかけにするというところに感銘を受けました。アカデミックにしっかり分析して、それらをどのように具現化していくのかというのは、先生方のお力添えをいただくことと、どのように地域の方々を巻き込んでいくのか、それに対して市がどういうサポートができるかということに尽きるんだろうということを考えております。

東大生の発表の中で伝建地区の中で空家のマッチングとかは、伝統あるところで商売やりたい方々へどう周知をしていくのかという点で、非常に効果的だと思います。

商売したいけど、それを単独でスタートするのかという意味では、先日宇和島市起業セミナーという催しで、今一番元気なまちづくりしてる、香川県の三豊市という町の話の話を聞きました。ここはもう地域が一体となって足りないものを自分たちで作っていきこうという、見るだけでワクワクする活動をされている地区で、私が現地で見せていただいたものを、宇和島市民にもぜひ見て欲しいということで、起業セミナーという仕事を起こしていきたい人向けの催しでお話いただきました。

岩松でも、何かしたいでもどうしたらいいのかなという方々に、単独でやるのではなく地域全体で押し上げていく仕組み、勉強会等のソフトをどのように進めていくのかというところを、市としてどのように関わられるかということを感じていました。それがこの岩松地区でフィットする話なのかなということを感じていました。これから、ハードの部分ソフトの部分の支援などで、やれることはしっかりやっていきたいと、感じた次第でございます。こういった機会をいただきまして本当にありがとうございました。

【曲田】ありがとうございました。

今日のパネルディスカッションのテーマは「岩松のこれから」なんです。岩松もこれからの重要であるということいろいろ考えてやっ

ていきたい、そういうことを仰っていただきました。ありがとうございます。

それでは沢山の話題が飛び交いましたけれども、これをまとめるには文化庁調査官の村上さんしかおりませんので、最後、10分程ございますのでお願いいたします。

【村上】ありがとうございます。ちょっと荷が重いところもございますけれども、今日はいろんなお話を聞かせていただいて本当にありがとうございました。

いろんなお話伺って、本当にこれから頑張りたいという方々が行政にも民間にもいらっしゃるといのが、岩松が今選定されてこれから頑張っていくにあたって一番大事なところだなと私自身感じたところです。

三点お話ししたいと思うんですが、まず行政サイドの話、そして民間サイドの話、そして最後に、今日も小学校や中学校、津島分校や東大のグループのお話をいただきましたので、学校関係の話というふうにまとめていきたいなと思います。

まず行政サイドのお話はですね、西澤さんの方からも、来年事業やりたいところありますかと伺いされたところ、たくさん修理要望が出てきているというふうに聞いていて、とても喜ばしいことだなと思っています。

そういった修理の機会に、もちろん皆さんのおうちの居住環境を、雨漏りをしているとか、そういったところを改善するってのはもちろんのことですけれども、それに合わせてぜひ表構えの修理を進めていっていただけるとですね、町並みの連続性が生まれてきてさらに魅力的なところになっていくかと思っておりますので、もちろんコストとの相談もあると思うんですが、できるところから進めていかれるといいのかなと思いました。

先ほど後藤先生の方から、修理前に建築士さんがパースを書かれて、修理したらこんなに良くなるよというような絵を書かれると、モチベーションが湧きやすいというようなお話もあったんですが、その修理が終わった後ですね、もし所有者さんの了解がとれるのであれば、こういうふうになりましてというような見学会を開いていただければ、またそれも周りの住民の方のモチベーションになるのかなと聞いて感じたところです。

福井県の小浜市小浜西組伝建地区の保存会では保存会の中に幾つかの部局を設けておられて、その中に、まちづくり部局、防災部局など、いろいろあるんですが、そのまちづくり部局の中で、できた後の見学会を主導しています。

先ほど職人さんや設計士の方たちの育成も大事だよというようなお話があって、それもこれからの課題かなと思うんですが、すでに行政として頑張っていらっしゃる点というところでは、宇和島市さんにも、建築士を文化財の方で配置をしていらっしゃいますし、文化財的などが分かる職員の方がいらっしゃるといのは、文化庁としてもとても安心して任せられるところかなと思っています。

それと同時にですね、愛媛県の方にも建築職の方が配置されているというのは、全国的に見ても、本来であれば、どこもそうであればいいなと私も思ってるんですが、なかなかそうもいきませんで、かなり宇和島市さん、愛媛県さん恵まれているところかなと思うので、ぜひ所有者さんの皆さんも安心して修理に取り組んでいただきたいなと思いました。

あとですね、北山先生の方から、修理ガイドラインを作っていくにあたって調査いただけるようなお話がございました。おっしゃる通りで、一つひとつの建築の歴史が明らかになっていくことというのが大事なことで、その積み重ねをブラッシュアップしていくってところが大事なんだなというふうに私自身思っているところです。

そういった一つひとつの調査結果をまとめてガイドラインを作って、それを何に使っていくかということ、先ほど内子町の芳我さんの方からもお話をいただいたんですが、修景なんですね。新しい建物を、古い建物に調和させるような形で直していく、その修景をするときに、この岩松の町並みの特徴というのはこういうところにあるので、これを参考にしましょうっていうようなガイドラインができると思います。ぜひ皆さんも一緒に岩松の特徴というのはこういうところかなっていうのを見ていただければいいのかなと思いました。

長くなりそうなので次に行きますけれども、民間の取り組みとして松岡さんからいろいろお話いただいて、本当に私が選定にあたって来ていたときからさらにですね、面白い取り組みが

進んでいるというところに、びっくりをしたとともに、これからすごく楽しみだなあと思いました。地域の当たり前が当たり前でないというのは、まさにその通りで、地域の当たり前が愛媛県にとっての当たり前じゃない。それは、日本全国的に見たらもっと珍しいことで、さらに世界から見ると、もうどれだけ珍しいことかというところかなと思っています。

ちょっと余談ですが、今日私がしてる真珠も、選定にあたって来たときにですね、そんな高いものじゃないんですけど、宇和島市内のホテルで記念に買ったものなんです。通常から気に入って着けておりますけれども、京都のカフェで隣に座っていた海外からの観光客の方が、あなたそれどこで買ったのと聞かれましたね、私、愛媛県の宇和島ってとこだってという話をしたんですが、その方は、ドバイから来られた親子でした。

まず真珠が珍しい、欲しいなと思えるというようなポテンシャルがあり、世界から見ると珍しいものってというのは、地域にいろんなものがあると思えました。

これまで守られてきたいろんな文化を引き継いでいくっていうのはもちろんですけども、ボジョレーヌーボーのイベントのように、これから行われていくイベントも人気になって、これが10年20年そして、もしかしたら50年続いたら、それがまた文化財というか、地域の伝統的なイベントになっていくのかもしれないなと思ったところです。

そして最後に、今日とてもうれしかったのが、岩松小学校と津島中学校、宇和島東高校津島分校の発表。これはですね、本当にうれしく拝見させていただいて、すごく皆さん真摯に調べていただいて、もう文化財調査官ジュニアみたいだなと思って、すごく嬉しく感じました。こうやって若い世代の方に引き継いでいただけているのが、何よりも大事なことだなと思っています。

また東大の先ほどのグループの方からはですね、建物の強化、コミュニティの強化、関係人口の創出というところを切り口にですね、いろんなご提案をいただいて、本当に災害に対するリスクというのは、もう、日本全国どこに住んでいても考えなきゃいけないことだなと思っています。1月にですね、能登半島地震がありま

したけれども、その時もですね、2年前に地区の防災計画を立てておりました。本当にひどい被害を黒島地区受けているんですが、その2年前に立てた防災計画の中で、住民の方たちが避難訓練をしっかり行われていて、今回の地震の際にも、1回目の地震のときに皆さん、避難場所に避難をされて、点呼をして、足りない方が1人居て、その方を助けに行って、全員が怪我なく助かったと聞いておりますので、ぜひ、防災についても、皆さん身近に検討していただければ、嬉しいなというふうに思っています。

ちょっと長くなったんですけども、今日の話全体をざっくりまとめると、ここに住むのが楽しそうだなと思っていただけるような町づくりをしていけるといいのかなと思ひまして、最初に私からも申し上げた通り、古い建物を残していくってのはもちろんですけども、伝建制度というのは町づくり制度で、今これからの皆さんの手にかかっているところかなと思います。

うまくこの伝建制度を使いこなしながら、いろんな補助金を使って、皆さんの大好きな町並みをこれからどんどん魅力的にしていっていただけるといいかなと思ひました。私からの総括は以上です。

【曲田】今日の長いディスカッションをととても上手くまとめていただきまして、ありがとうございました。おまけにちゃんと、気づかいの真珠のネックレスも着装いただき感謝申し上げます。

それから会場の皆様も長時間ありがとうございました。また内子町の芳我様には、急なご指名で申し訳ございませんでした。

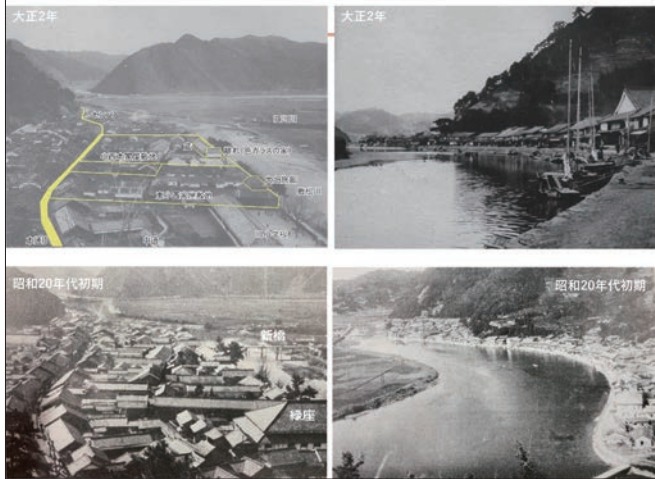
それではフロアのパネリストの皆様には拍手でもってお礼を申し上げたいと思います。

(拍手)

以上をもちましてパネルディスカッション「岩松のこれから」を終了いたします。

どうも皆様ありがとうございました。

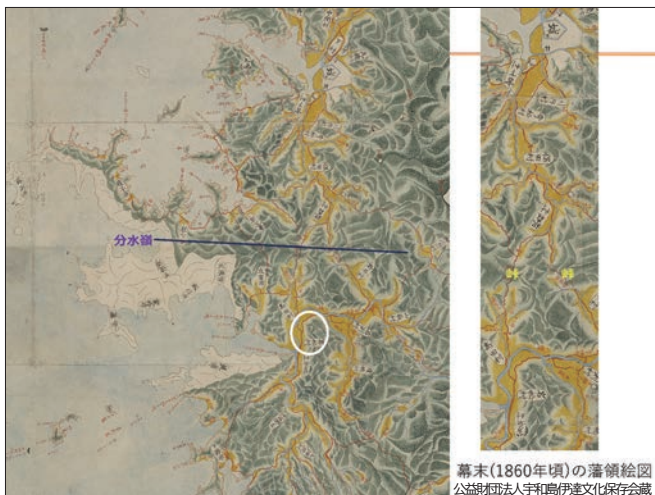
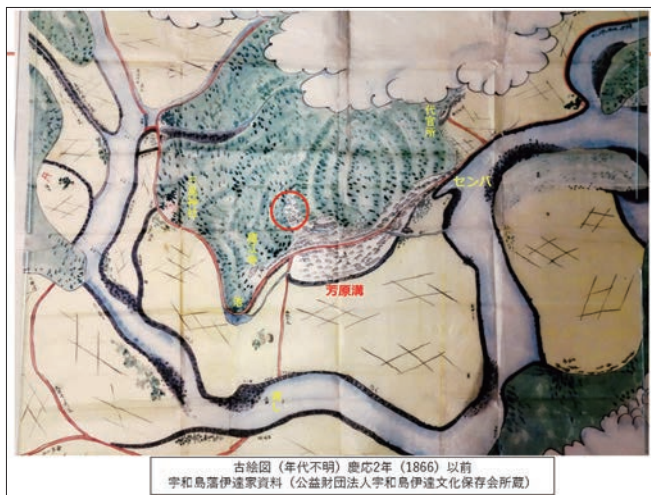
宇和島市津島町岩松の町並み
重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム



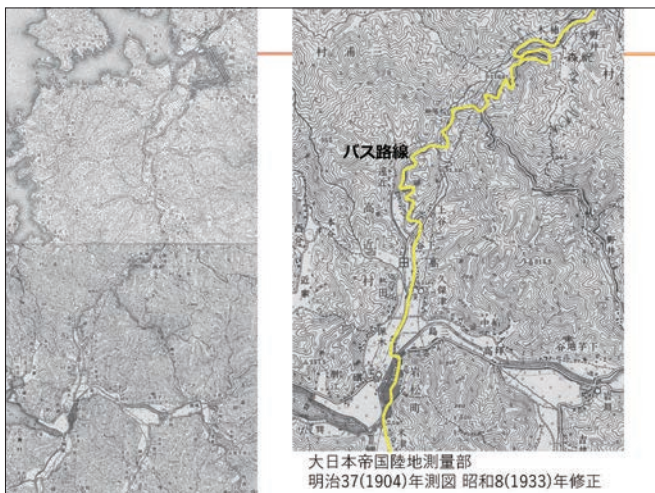
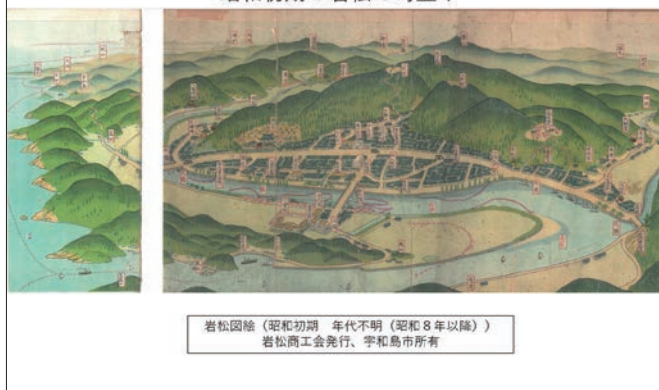
3. 岩松の歴史 町の発展



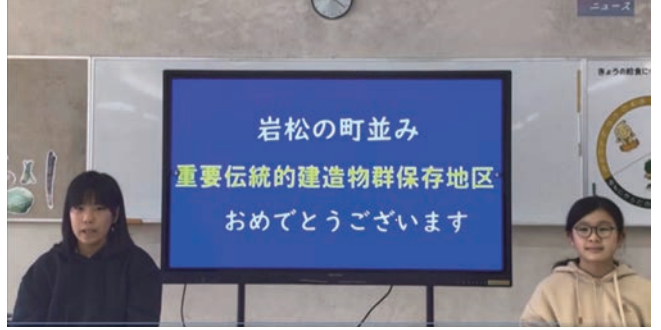
3. 岩松の歴史 立地から見て



昭和初期の岩松の町並み



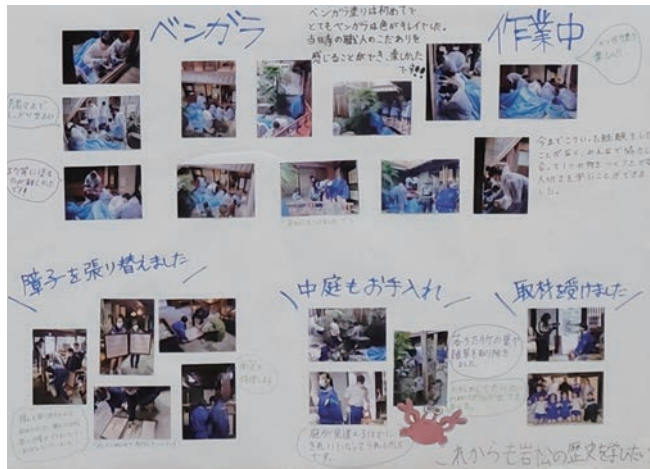
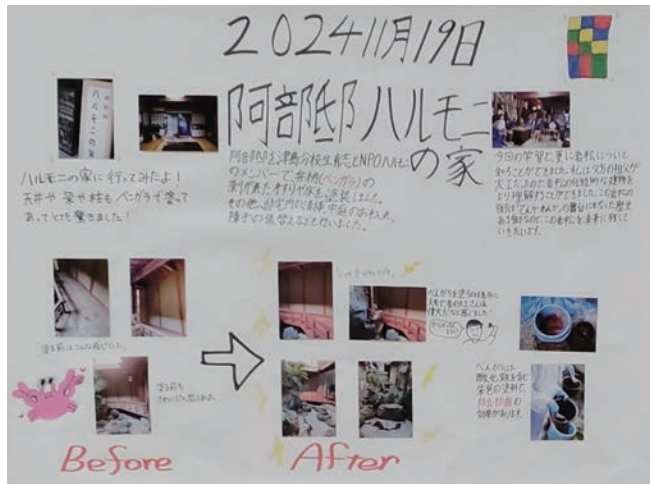
岩松小学校の取組



岩松小学校 第6回うわじま学校自慢CM大賞 応募映像作品



津島中学校 作製地図



宇和島東高等学校津島分校 活動報告



北宇和高等学校写真部 岩松の町並み写真展示

伝建制度における岩松の未来

～重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム～

令和6年12月1日(日)
文化庁文化財第二課
文化財調査官 村上玲奈

伝統的建造物群保存地区制度とは？

制度の目的 伝統的建造物群が周囲の環境と一体をなして形成している歴史的風致を維持するため、伝統的建造物群の主として外観上認められるその位置、形態、意匠等の特性をその周囲の環境と併せて保存する【昭和50年次長通達】

現状変更の規制：**主として外観（密接に関係する内部）**を対象

位置

規模・形態

意匠・色彩

保存活用計画とは 市町村が条例にもとづいて、保存地区決定後に告示する保存及び活用に関する計画 ⇒ 地区のマスタープラン

宇和島市津島町岩松について（令和5年12月15日告示）

地区名称	都道府県	種別	面積	選定基準
【新規】宇和島市津島町岩松	愛媛	在郷町	約10.6ha	(三)

○宇和島市津島町岩松は、農村から津島郷の物資集散地への変容とともに町並みが形成され、江戸後期から近代にかけて商業を軸に発展を遂げた在郷町である。

○天が森と岩松川に囲まれた狭隘な敷地に、江戸末期から昭和40年代にかけて建てられた切妻造平入の町家に加え、土蔵や雑れ、農家住宅、近世の地割を残す芳原溝等の水路を形成する石垣等の伝統的建造物が残る。

○これらの伝統的建造物群が、リアス海岸に注ぐ河川及び周囲の急峻な山林と一体となって歴史的風致を形成しており価値が高い。

伝統的建造物群保存地区制度とは？

暮らしの継承

建築技術の継承

地域の伝統の継承

重要伝統的建造物群保存地区の選定・基準・種別等（令和6年12月1日現在）

(一) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの

(二) 伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの

(三) 伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

種別	基準		
	(一)	(二)	(三)
城下町・武家町	0	17	1
商家町・茶屋町・製糸町・商家町	21	6	3
港町	1	10	3
産屋町	5	4	4
在郷町・在郷町・願道町	2	6	3
寺内町・在郷町	1	3	6
寺町・寺町・商家町	0	3	0
辻家町・門前町	0	2	4
密坊群・門前町	0	2	4
山村集落、長森・山村集落	0	0	22
農村集落、漁村集落	0	2	0
船主集落	0	2	0
合計	30	53	46

重伝建が多い道府県

- 石川県 8地区
- 長野県 8地区
- 京都府 7地区
- 岐阜県 6地区
- 兵庫県 6地区
- 富山県 5地区
- 岡山県 5地区
- 山口県 5地区
- 福岡県 5地区

伝統的建造物群保存地区制度とは？

宇和島市津島町岩松の保存活用計画の基調

この保存活用計画は、津島町岩松の先人達が築いてきた歴史や自然が形成してきた保存地区の歴史的町並みを、**保存地区住民ひいては宇和島市民共有の財産として保存すること**とともに、**交流や情報発信を通したまちづくり**に活用することにより、保存地区の**生活環境の向上と地域文化の振興**に資することを目的とする。

伝統的建造物群保存地区制度とは？

伝統的建造物群保存地区制度の枠組み

伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物群を構成する伝統的建造物（通称：特定物件）

文化財

伝統的建造物群と一体をなす環境を保存するため、特に必要と認められる物件（通称：環境物件）

建築物

その他の工作物

自然物（例：樹木、池、川）

土地（例：山林、原野、庭園）

維持保存

調和

伝建群とその歴史的風致の保存・活用へ

伝統的建造物以外の建造物

伝統的建造物群保存地区基盤強化事業

- 伝統的建造物群の保存・対策、防災対策に係る調査
- 修理・修葺・公開活用整備事業
- 防災・耐震事業
- 買上事業
- 先端技術の活用

伝統的建造物群保存地区基盤強化事業

文部科学省

下郷町大内宿 伝統的建造物群保存地区 (福島県、昭和56年選定)

現在

選定前

観光客数
昭和59年 1万人
平成30年 80万人 (うち外国人 4万)

町並み保存と防災

文部科学省

1. 外観保存に重点を置いた耐震補強

耐震補強

- 格子壁
- 構造用合板あらわし
- ブレース
- 床下制振ダンパー
- 水平横面ブレース

町並み保存と防災

文部科学省

いのちを守る防災

火事 地震

- ・伝建地区は特に木造建造物が密集している。
- ・火災や地震等の災害から住民の生命・財産及び文化財の価値を守るため、地区全体に対する防火対策、耐震対策が必要

災害時の防災力を高めるためには、地区住民が正しい知識と高い意識を持ち、かつ災害予防や減災に努めることが大変重要

持続可能な活用へ

文部科学省

④ 保存会や応援団の取り組み (次の世代へバトンを渡す)

○空き家ガイド・出店ガイドの作成 (福島県若狭町熊川宿)

○マスタープランの作成 (福島県小浜市小浜西組)

西組町並み協議会のスローガン
「ベンガラ格子の灯るまち」

宇和島市津島町岩松の町並み 重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム

これからの、岩松の町並み。

昭和初期の姿を再現し、現在も色濃く残る岩松は江戸貞土の頃に宇和島を結びつけて活躍を起し、後に庄屋を兼ねた家高小西家によって開かれた。基盤から別荘大正昭和期にかけて階層を積み重ねた二階の選定対象を巡る旅をしよう。あじろの町並みは、重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのをはじめ、重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウムを開催いたします。

2024.12.1 13:00~16:00 岩松公民館2階ホール 入場無料 | 申込不要

基調講演 | 岩松のこれからと伝建制度 後藤 治 [工学院大学理事] 事例報告 | 岩松の町並みのあらし 西澤昌平 [宇和島市教育委員会] パネルディスカッション | コーディネーター/ 島田清雄 パネリスト/ 宇和島市長 岡原文彰、文化庁文化財第二課文化財調査官 村上玲奈、高知高専准教授 北山めぐみ、報告者ほか

問合せ 宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 Email: bunka@city.uwajima.lg.jp TEL: 0895(49)7033 主催 宇和島市・宇和島市教育委員会

宇和島市津島町岩松の町並み 重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム

これからの、岩松の町並み。

令和6年12月1日 13時~16時 岩松公民館2階ホール 申込不要 入場無料

基調講演 一治町の丘を伝建制度 後藤 治 [工学院大学理事] 事例報告 一治町の町並みのあらし 西澤昌平 [宇和島市教育委員会] シンポジウム コーディネーター/ 島田清雄 パネリスト/ 宇和島市長 岡原文彰、文化庁文化財第二課文化財調査官 村上玲奈、高知高専准教授 北山めぐみ、報告者ほか

問合せ | 宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 Email: bunka@city.uwajima.lg.jp TEL: 0895(49)7033 主催 | 宇和島市・宇和島市教育委員会



岩松外観デザイン調査について

@2024.9.2-4 香川大学宮本研究室・高知高専北山研究室
高知工業高等専門学校 北山 めぐみ



暮らし方に応じた主屋の種類



岩松の町並み

江戸末から昭和40年代頃までの様々なデザインの建物が残る

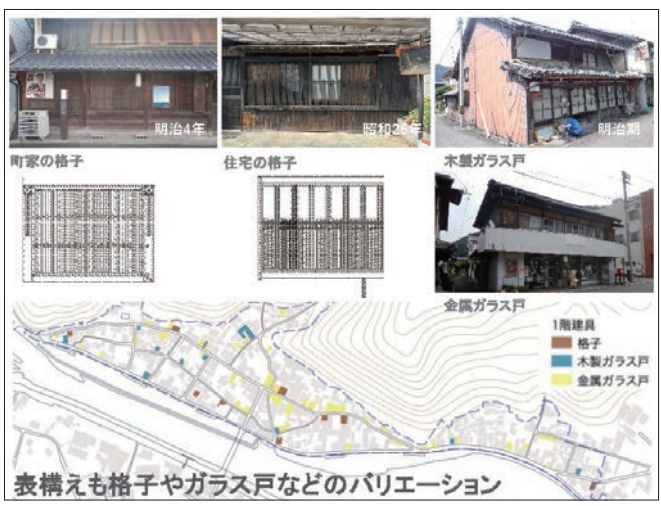


江戸末期



2024.9.2-4
香川大学宮本研究室
高知高専北山研究室
宇和島出身佐賀大学生が

道から見ることで
特定物件98棟の
外観要素を調査

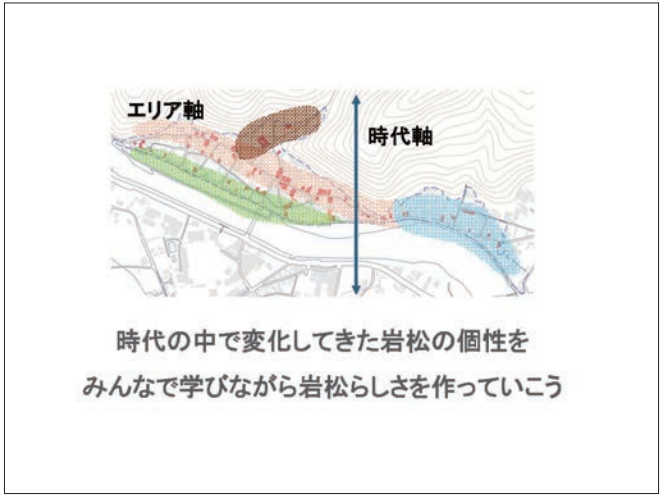


表構えも格子やガラス戸などのバリエーション



今回調査した建物

- | 建物種別 | 棟数 |
|------|-----|
| 主屋 | 69棟 |
| 土蔵 | 8棟 |
| 付属屋 | 16棟 |
| 離れ | 3棟 |
| 旅館 | 2棟 |



時代の中で変化してきた岩松の個性を
みんなで学びながら岩松らしさを作っていこう

岩松とハルモニと私

25年前のあの想いがつながった！

NPO harmoni〜ハルモニ〜
代表 松岡 あや

レンタルスペースとして



癒しデイ



映画上映会



週末カフェ

自己紹介 松岡 あや

松山出身 (25年前に岩松の風景に魅せられ南子に移住)
生業 看護師+フットケアサロン経営
子どもは3人

2009年より母と子エンジョイコミュニティhahatoco
〜ハハトコ〜として活動。
2024年今年4月NPO harmoni〜ハルモニ〜を立上げ
岩松地区にて、古民家活用プロジェクトをスタート
旧酒造場阿部邸をハルモニの家とし、レンタルスペース、シ
ェアカフェ、ゲストハウスの運営をしている

趣味 どこでもブラブラ歩くこと
立ち読み、音楽を聴くこと
ときどき運動各種

一目惚れした街が
このまま永遠なるなんて！
いやだー
もっさいない！

フォトセッションの舞台として


地元のアーティスト作品
を物販






阿部邸 ハルモニの家とは

まずはハルモニって？
↓
ハーモニーのこと
つまり調和♪
↑
新しいモノと古いモノ
外の者と内の者
若い人と年をとった人



次世代へつなぐために

宇和島東津島分校の
学生による
ベンガラ塗りなど




阿部邸 ハルモニの家主催イベント





ハルモニオープニング
おひなまつり
夏まつり (提灯行列) スイーツマルシェ
発幸食堂



とにかく大人が楽しもう♪








制度提案

全国伝統的建造物群保存地区協議会(伝建協)で行う3つ+文化庁で行う1つ+県/市で行う2つの制度

伝建協2 共通空き家バンクの運営

- 全国的に重建建で空き家が増えている
- 伝建地区の建物の短期～長期間の活用・居住は一定数の需要が見込まれる

全国の重建建地域の空き家の情報を伝建協が一元管理し、活用・居住意向のある個人/法人とのマッチングを行う

管理不全の空き家の減少により、空き家の倒壊による道路閉塞や火災の抑制につながる
+復興時の景観復元に繋がる

14

提案概要

岩松らしい空間構造とコミュニティの保存・再生を念頭に、事前復興+震災後の復旧復興期に焦点を当てた提案を行う。

3つの方針

1. 建物の強化
2. コミュニティの強化
3. 関係人口の創出

5

制度提案

全国伝統的建造物群保存地区協議会(伝建協)で行う3つ+文化庁で行う1つ+県/市で行う2つの制度

伝建協3 重建建基金の設立

全国の重建建活用宿泊施設
指定建築に宿泊＝建築の価値を認める層から宿泊税を徴収

全国の重建建の被災建築、災害高リスク建築
災害復旧事業および事前復興事業に対して補助

伝建協独自基金

全国の重建建で連携して貯めた基金を、災害高リスク建築の事前復興や、災害で被災した重建建の復旧復興事業に充てる

15

空間提案

観光拠点+防災拠点として、まちのネットワークの中心を作る

現状の様子

拠点施設 (観光復旧復興拠点)

高台

広場

駐車場

観光拠点+防災拠点として、まちのネットワークの中心を作る

拠点：昔からのまちの中心である本通り沿いで最大想定津波を逃れる場所
広場：拠点との連続性を持ち、木密地域の延焼遮断帯となる

7

制度提案

全国伝統的建造物群保存地区協議会(伝建協)で行う3つ+文化庁で行う1つ+県/市で行う2つの制度

県/市2 現地再建促進のために隣接する複数軒がまとめて再建/修繕を行った場合に補助率を加算

全壊
被災時
被害僅少
復興時
補助率加算対象
連続的な街並みの復興
補助対象
消失

16

拠点

住民の集会場
交流、情報交換の空間を備える

観光案内所
地域ガイドツアーの拠点
お土産屋

災害後の復興センター
ボランティアセンター
情報発信場所

8



1F内装

住民の集会所
1段上がったプライベード空間

耐震補強方法の可視化+専門家への相談
→建物補強の周知と実現へ

9

ツアーの感想 (抜粋)

建築と景観面での気づき

- レトロで良い雰囲気
- 道が細く、古い家屋が多い。
- 岩松には和風建築と洋風建築双方が混在するような町並みが特徴的だと分かった。
- 長屋が多いこと。道が狭い。上を見上げて狭い感じがする
- べんがらが塗り直されていたこと。

防災面での気づき

- 建物の倒壊で避難路が使えない場所が多い
- 実際には様々なリスクがあり、避難は困難と思った
- 普段は通れる道でも、災害発生時は通行できないことを想定して、避難場所に向かう必要があることがよく分かった。
- 道が狭くて逃げにくい真っ直ぐな道が少ない印象で、逃げる時に見通しが立ちにくいサインがないからどこに逃げたらいいのか始めてくる状態では分かりにくいかもしれない
- 液状化からブロック塀の倒壊に至るまで、防災的な観点から町を見ると、多くのリスクがある事を再度気づいた。

23



宇和島市津島町岩松の町並み
重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム記録集

発行日 令和8年3月23日
編集・発行 宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 文化係
〒798-8601 愛媛県宇和島市曙町1番地
TEL 0895-49-7033 FAX 0895-22-5058
印刷 コーノ・ディレクション